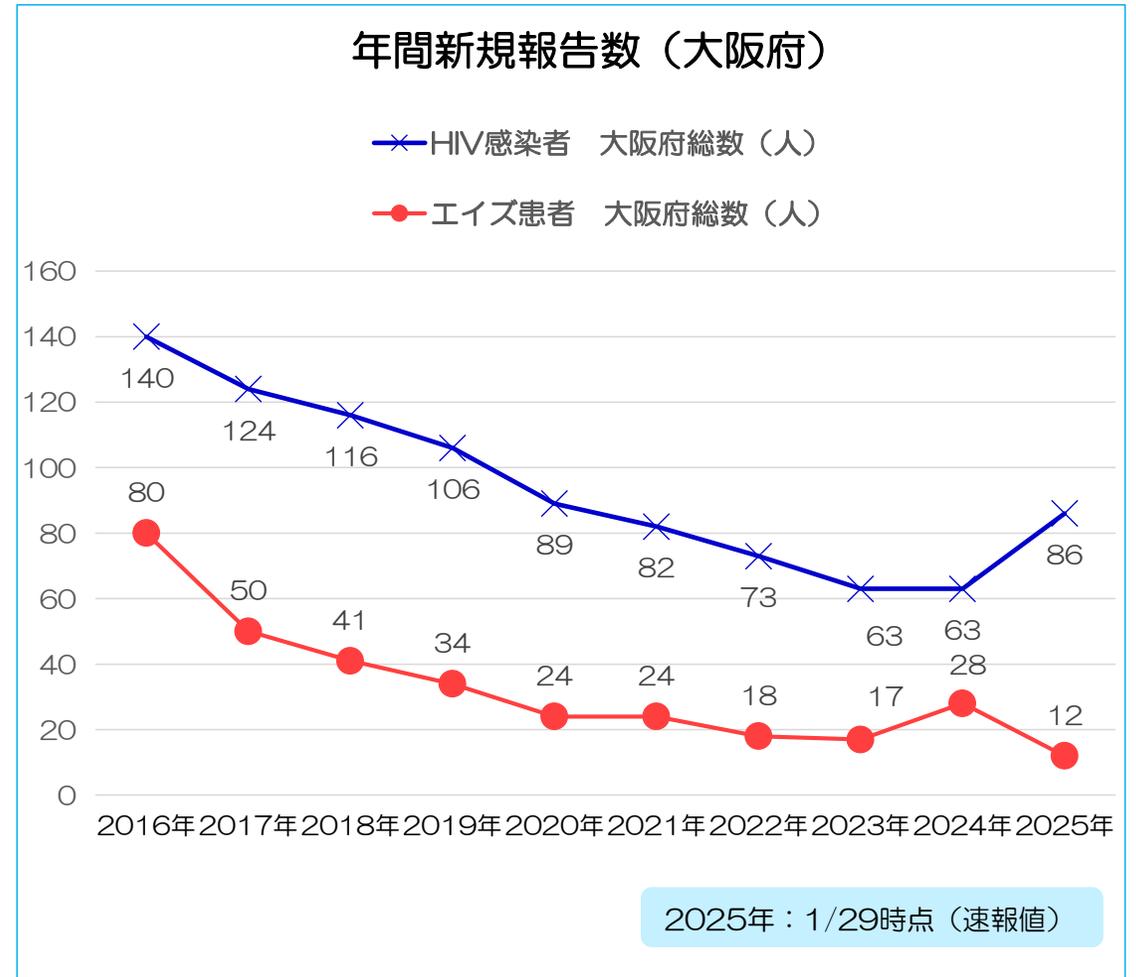
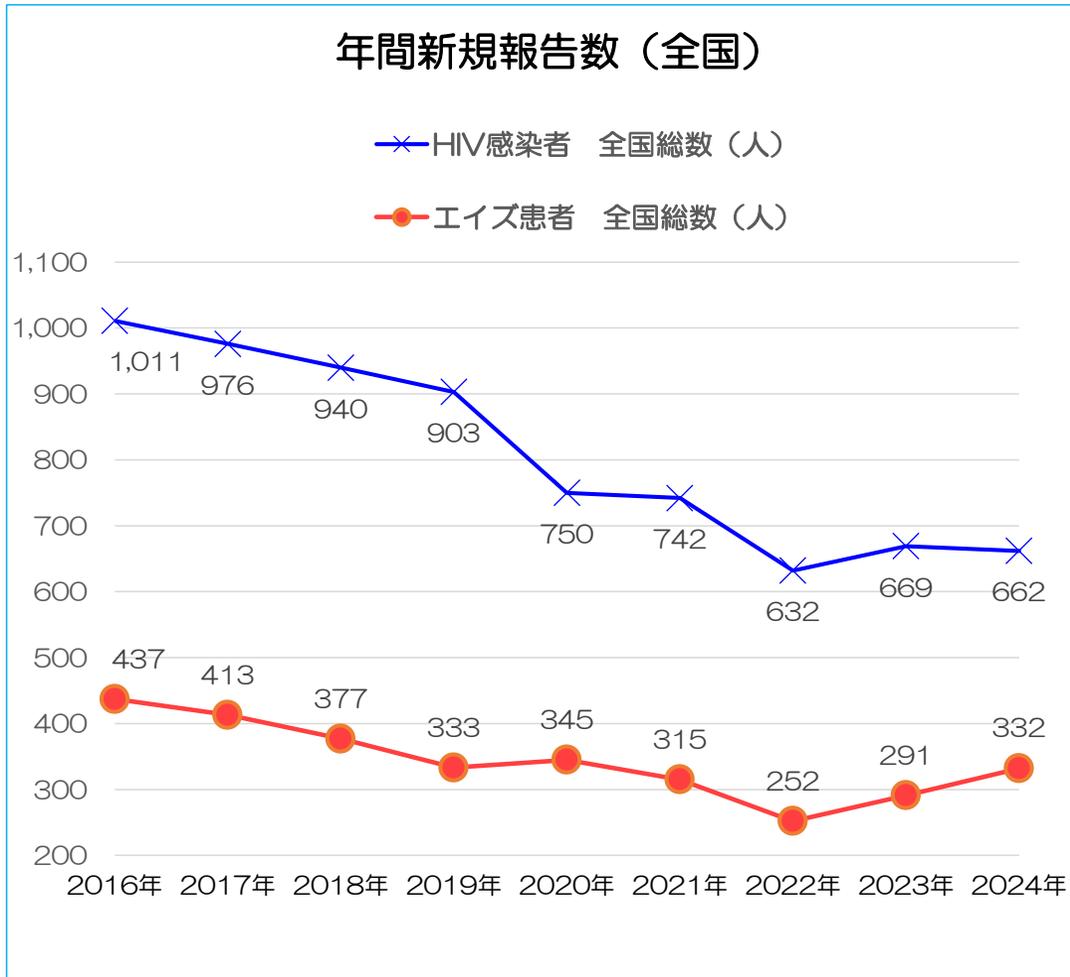


大阪府のHIV／エイズ・ 性感染症の発生動向

(1) HIV／エイズ

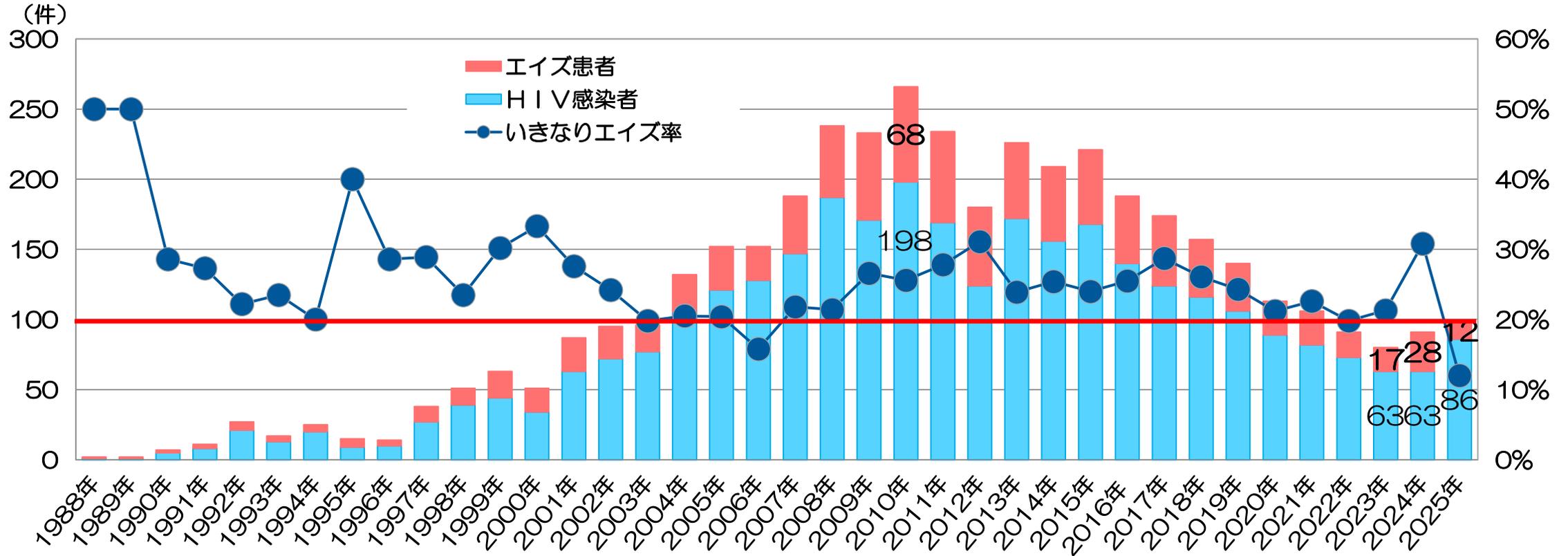
年間新規報告数の推移（全国と大阪府の比較）＜2016年～2024年＞

●全国については、HIV感染者もエイズ患者も減少傾向にあったが、2023年にどちらも増加し、エイズ患者については、2024年もさらに増加。大阪府も国と同様に減少していたが、エイズ患者については2024年に増加。ただ、2025年はこの10年間では最も低値になる見込み。



大阪府の新規HIV感染者・エイズ患者報告数及び「いきなりエイズ率」の推移

●2022年より、HIV感染者とエイズ患者の合計数が100人未満（20年前の2003年以来）となっているが、2024年は、エイズ患者数が増えたことで前年よりも合計数が11人増え、「いきなりエイズ率」が9.5ポイント増加した。2025年は、12/7時点の見込として、20%を下回ることが想定される。

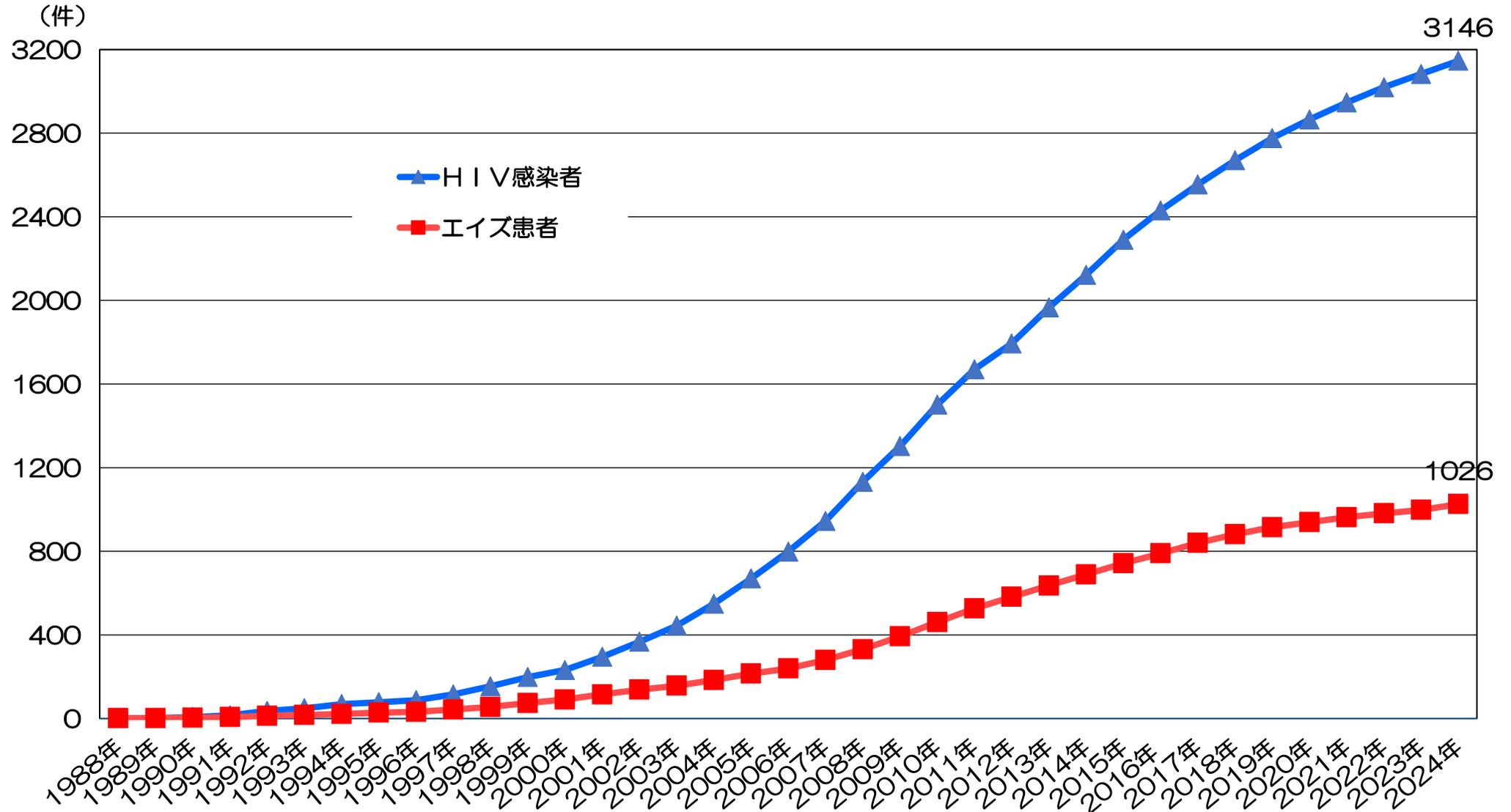


HIV感染者とエイズ患者の合計報告数に占める「エイズ患者の割合」

【大阪府】2020年 (21.2%) → 2021年 (22.6%) → 2022年 (19.8%) → 2023年 (21.3%) → 2024年 (30.8%) → 2025年 (12%)
 【全国】2020年 (31.5%) → 2021年 (29.8%) → 2022年 (28.5%) → 2023年 (30.3%) → 2024年 (33.4%) 1/29時点 (速報値)

大阪府の新規HIV感染者・エイズ患者報告数の累計

●2024年の累計報告数は、HIV感染者で3,146人、エイズ患者で1,026人となっている。



HIV感染者上位自治体（2023年と2024年の比較）

●大阪府の2023年と2024年の状況を比較すると、報告数・人口10万対とも数値は変わらないが、2024年は、人口10万対で4位から2位になり、どちらの値も東京に次いで多い状況。

2023年	自治体	報告数	2023年	自治体	人口10万対
1	東京都	247	1	東京都	1.75
2	大阪府	63	2	福岡県	0.88
3	愛知県	58	3	愛知県	0.78
4	福岡県	45	4	大阪府	0.72
5	神奈川県	34	5	茨城県	0.54
6	北海道	26	6	沖縄県	0.54
7	茨城県	18	7	岐阜県	0.52
7	千葉県	18	8	北海道	0.51
9	埼玉県	15	9	長野県	0.47
10	静岡県	13	10	鹿児島県	0.45

2024年	自治体	報告数	2024年	自治体	人口10万対
1	東京都	227	1	東京都	1.60
2	大阪府	63	2	大阪府	0.72
3	愛知県	47	3	福岡県	0.71
4	神奈川県	41	4	岐阜県	0.68
5	福岡県	36	5	栃木県	0.64
6	北海道	29	6	愛知県	0.63
7	千葉県	18	7	北海道	0.58
8	静岡県	18	8	茨城県	0.57
9	埼玉県	17	9	大分県	0.55
10	茨城県	16	10	群馬県	0.53
10	兵庫県	16			

エイズ患者上位自治体（2023年と2024年の比較）

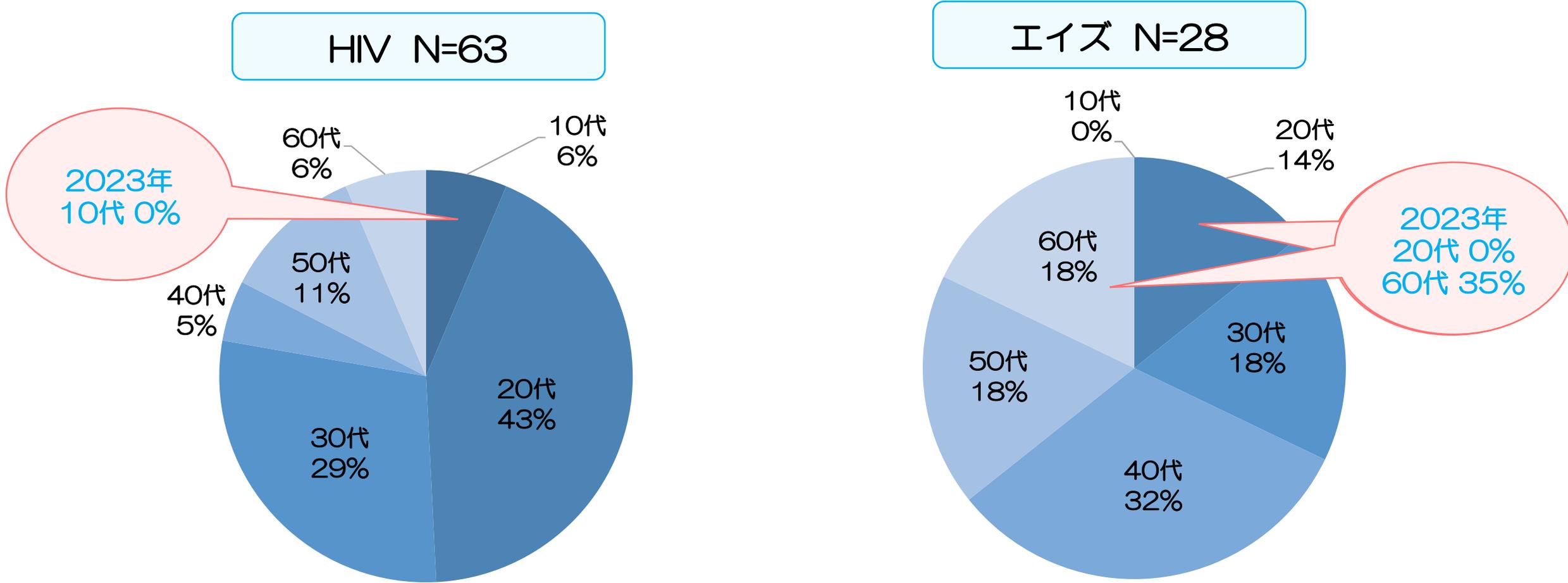
- 大阪府の2022年と2023年の状況を比較すると、報告数は減少し、順位が3位から4位に下がった。
- 人口10万対の報告数は、2022年と同じく、2023年も上位自治体には入らなかった。

2023年	自治体	報告数	2023年	自治体	人口 10万対
1	東京都	55	1	佐賀県	0.63
2	愛知県	27	2	沖縄県	0.48
3	千葉県	18	3	香川県	0.43
4	北海道	17	4	熊本県	0.41
4	埼玉県	17	5	東京都	0.39
4	大阪府	17	6	山口県	0.39
7	神奈川県	16	7	大分県	0.36
8	福岡県	14	8	愛知県	0.36
9	兵庫県	8	9	青森県	0.34
10	熊本県	7	10	北海道	0.33
10	沖縄県	7			

2024年	自治体	報告数	2024年	自治体	人口 10万対
1	東京都	63	1	高知県	0.61
2	大阪府	28	2	沖縄県	0.48
3	神奈川県	23	3	東京都	0.44
4	愛知県	22	4	茨城県	0.43
5	福岡県	20	5	栃木県	0.42
6	埼玉県	16	6	福岡県	0.39
6	千葉県	16	7	佐賀県	0.38
8	茨城県	12	8	和歌山県	0.34
9	兵庫県	10	9	大阪府	0.32
10	静岡県	9	10	長崎県	0.32

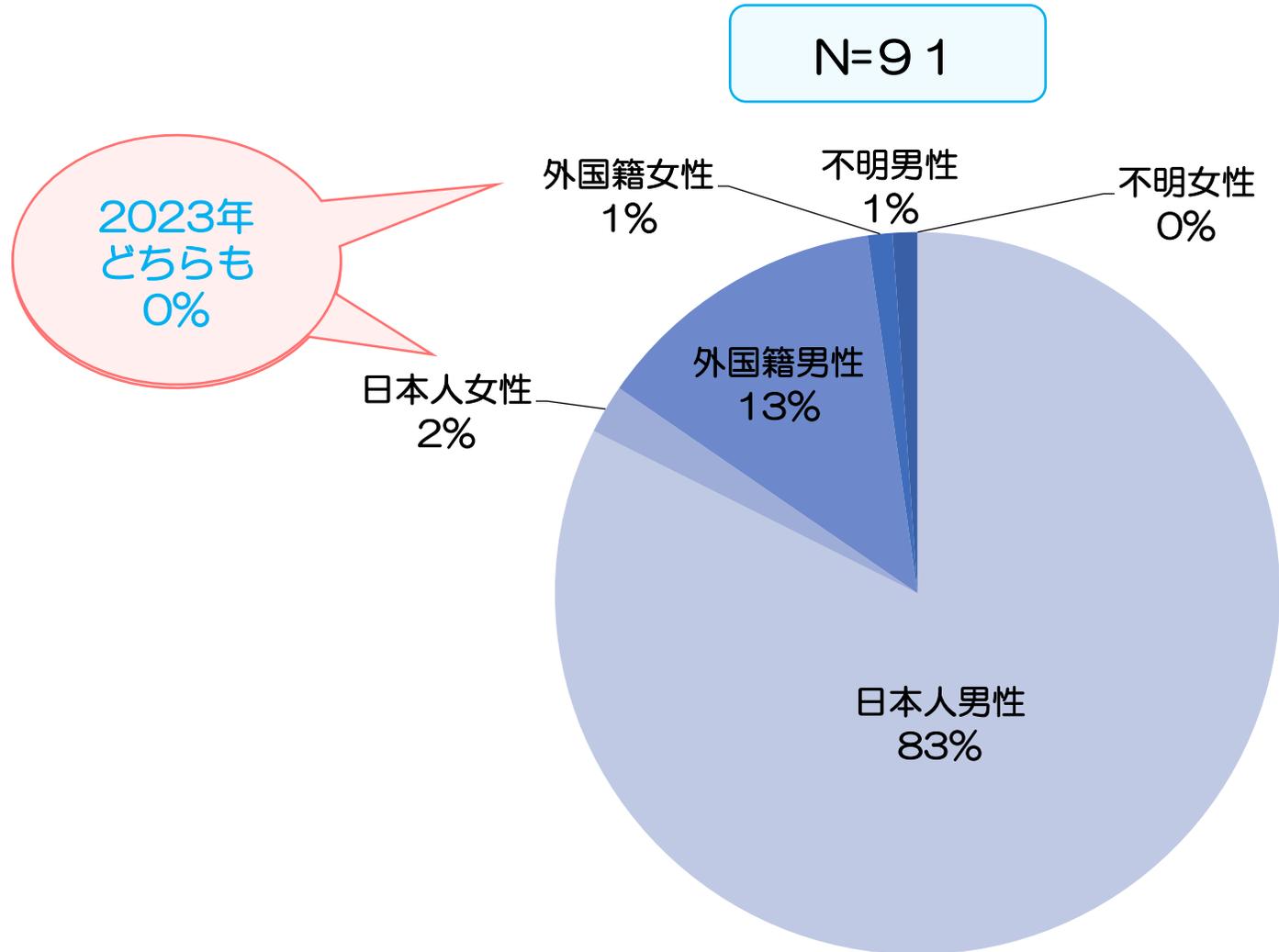
大阪府の年代別HIV感染者・エイズ患者の報告数（2024年）

●HIV感染者は、エイズ患者と比較して、10～30代の若年層の占める割合が約8割と多い。



大阪府の性別・国籍別HIV感染者・エイズ患者の報告割合（2024年）

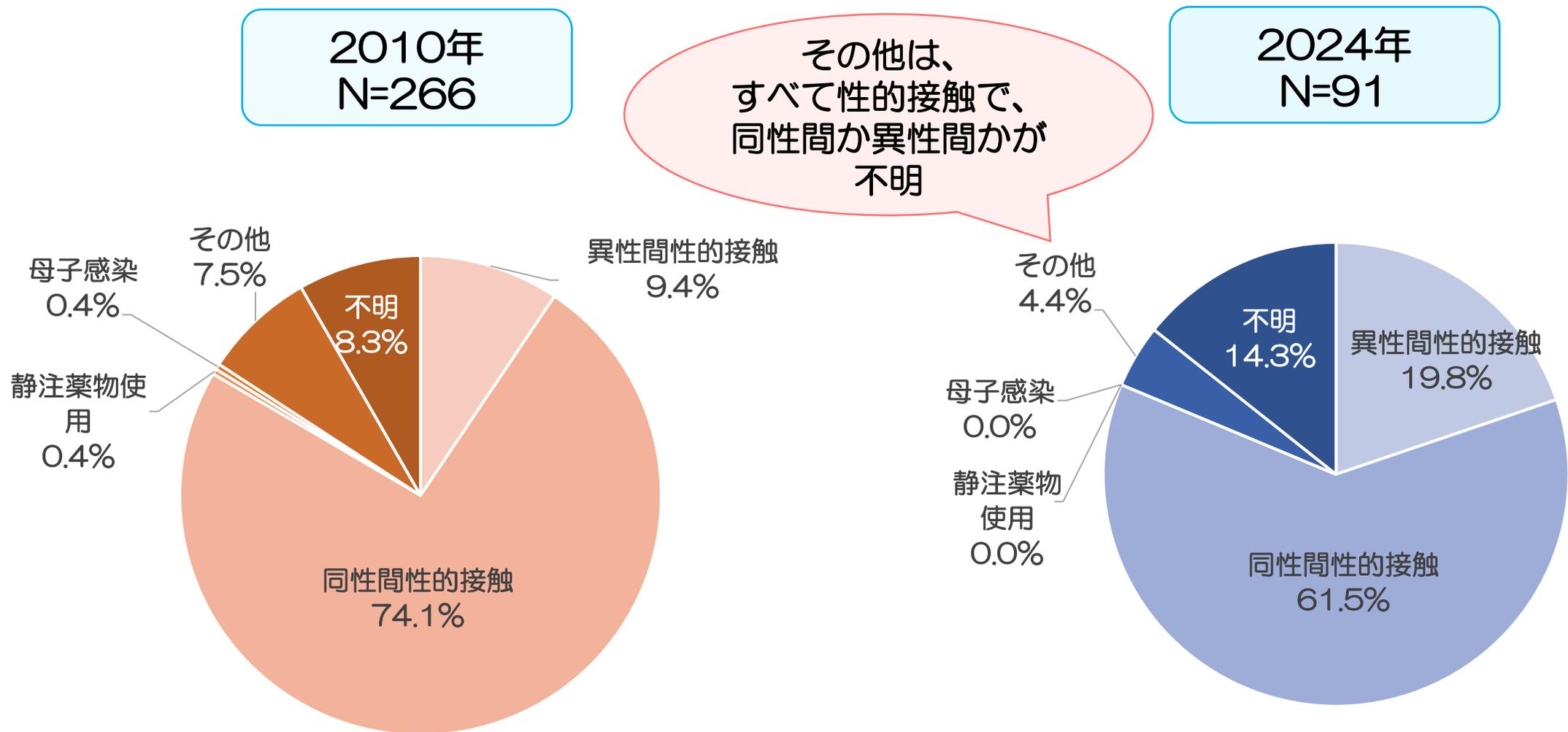
- 日本人男性が83%と多くを占めている。



※不明：発生届の「国籍」欄において、「不明」が選択されている場合

大阪府の感染経路別HIV感染者・エイズ患者報告割合の比較

- 過去最大の報告数だった2010年と、2024年の感染経路を比較すると、どちらも「同性間性的接触」が多くを占めているが、2024年のほうが「異性間性的接触」の割合が多くなっている。
- 母子感染・静注薬物使用についてみると、2024年は「0.0%」である。



全国の献血によるHIV陽性判明者の推移

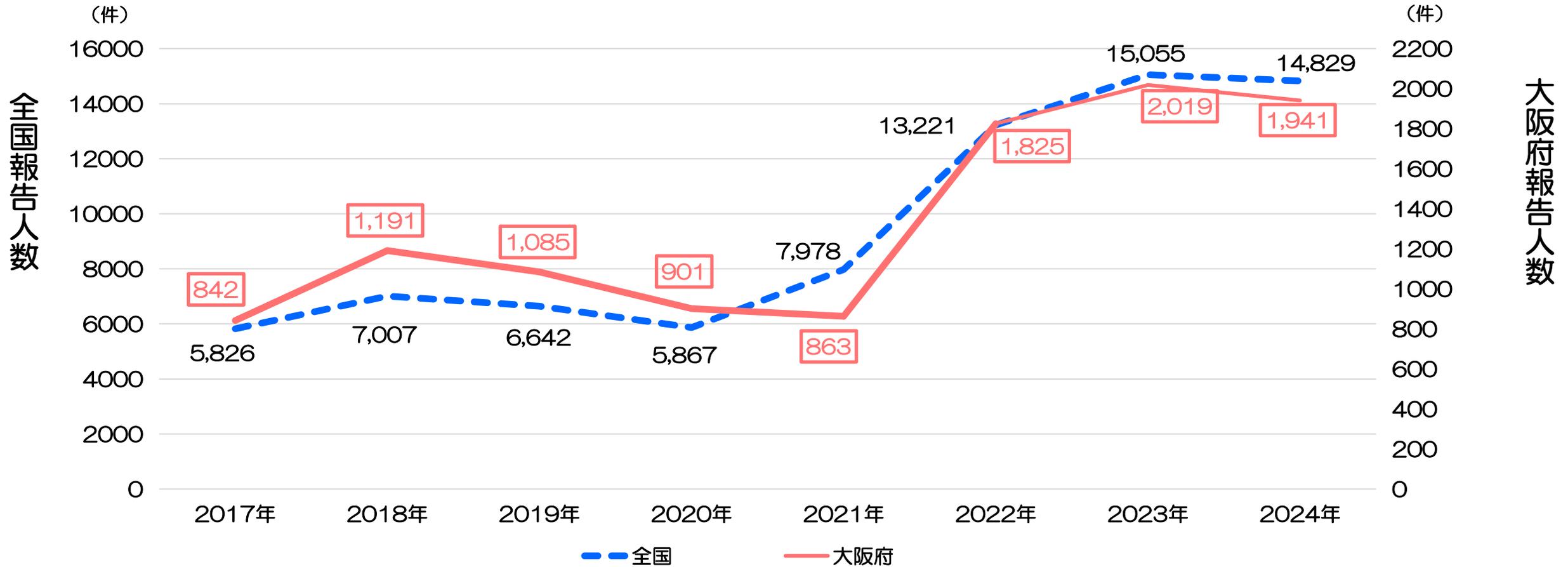
HIV陽性献血者数の推移



(2) 梅毒 (全数) •
性感染症 (定点)

国と大阪府の梅毒報告数の年次推移の比較

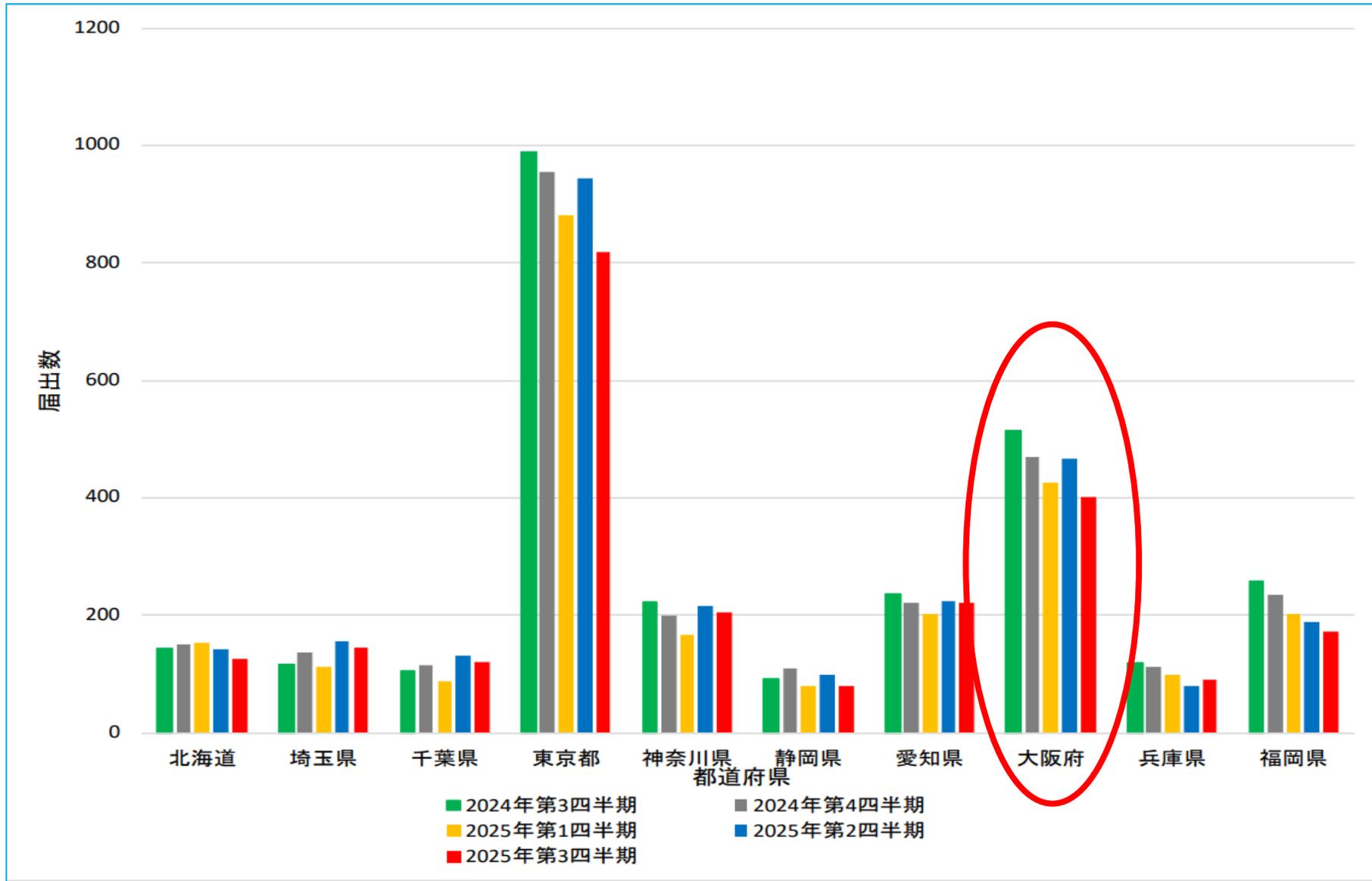
●大阪府は、2018年をピークに減少傾向だったが、国が増加した翌年の2022年より急増し、**国と同じく大流行中**である。



出典：(国) 厚生労働省 性感染症報告数
(大阪府) 感染症発生動向調査システム

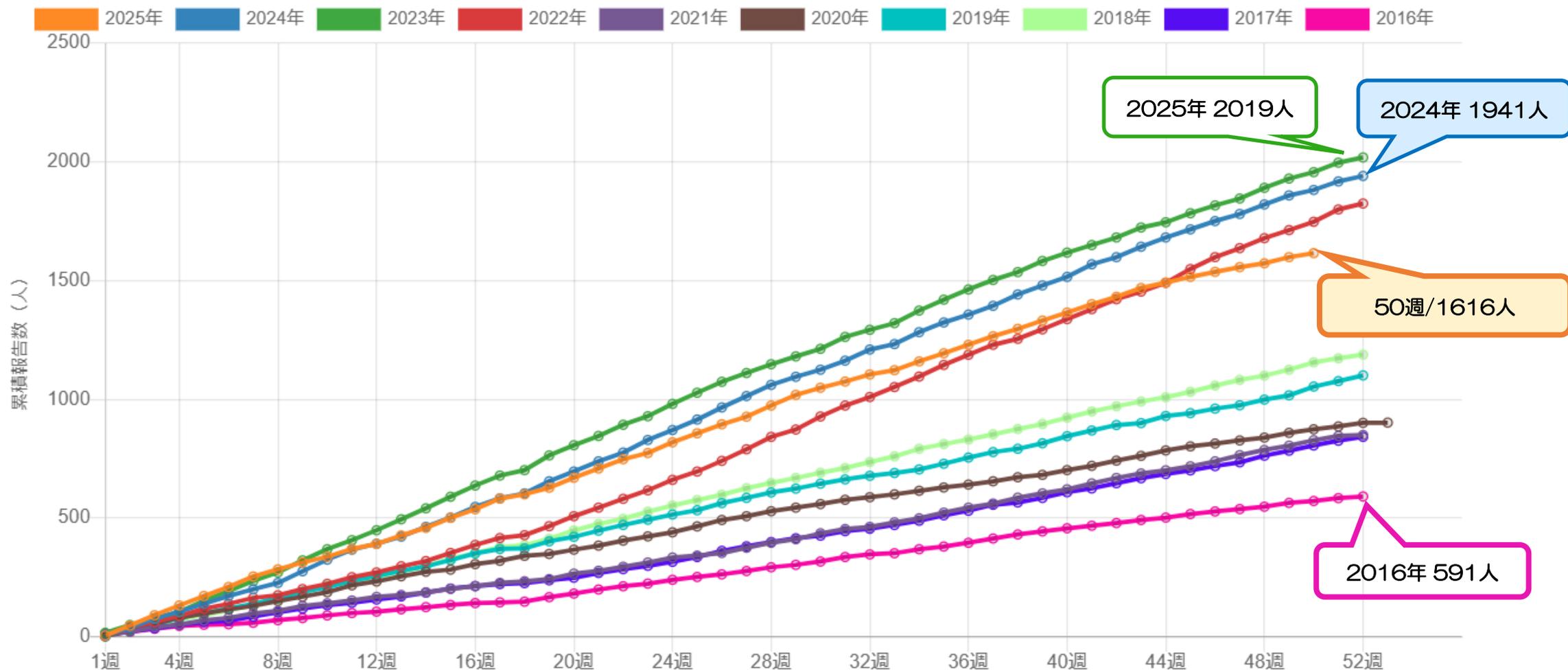
梅毒報告数の推移（届出数上位 10 位の都道府県）＜2024年第3四半期～2025年第3四半期＞

● 東京都の報告数が断トツに多いが、いずれの時期も大阪府は東京に次いで2番目に多い。大阪府は東京都と同様の推移を示しており、2025年の第3四半期は減少している。



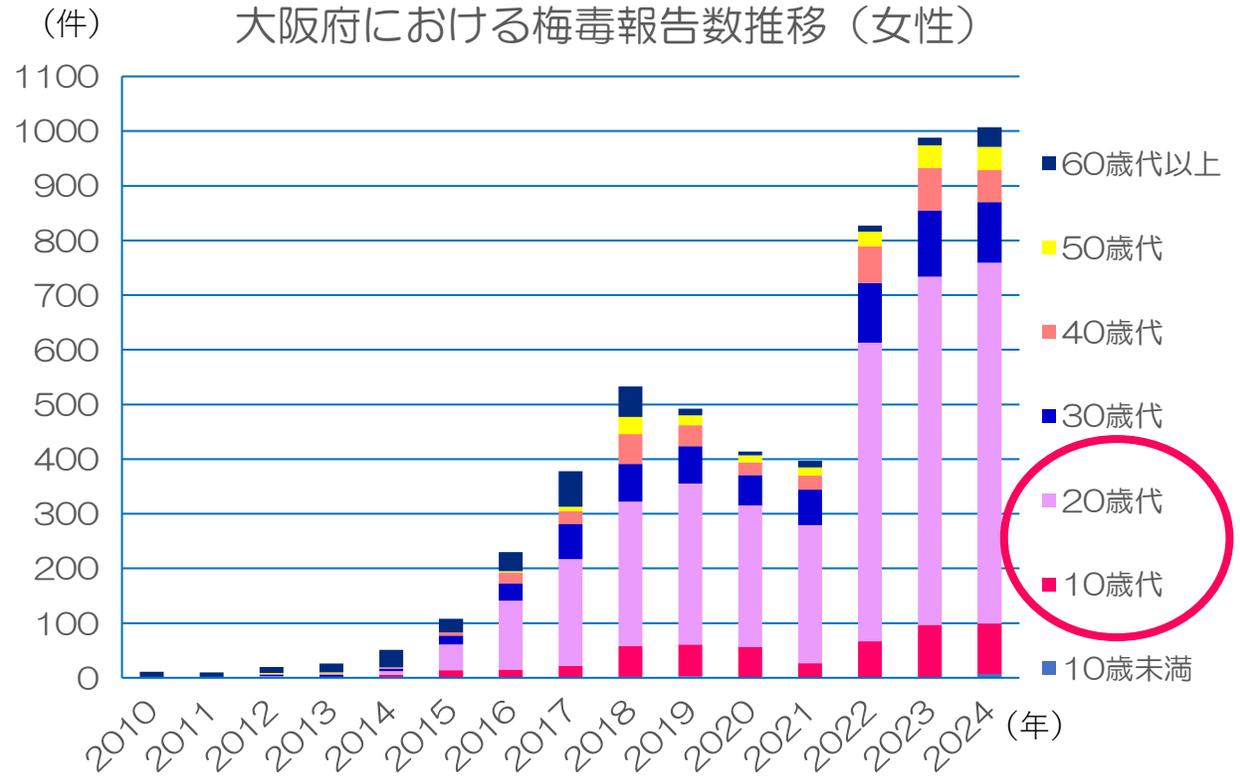
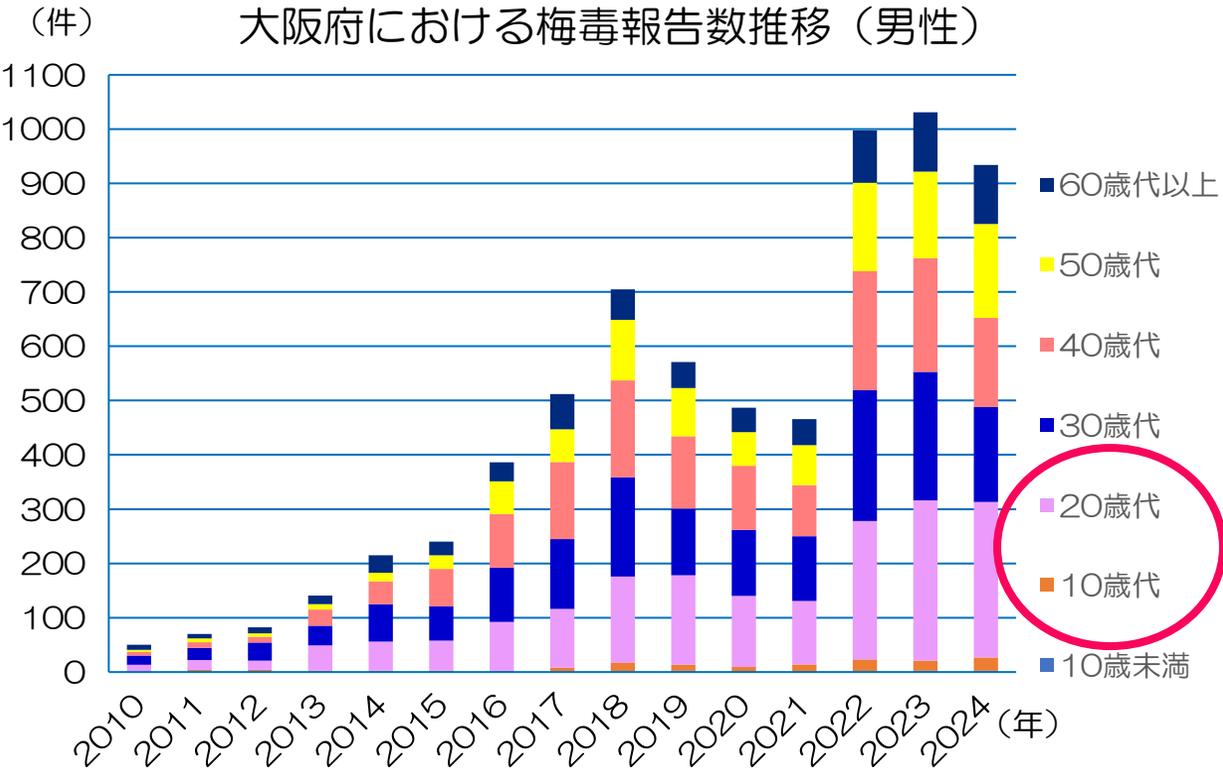
大阪府の各年の梅毒累計報告数＜ 2016年～2025年（14週まで）＞

●1999年（全数把握感染症に定められて以降）～2021年の間は、2018年が過去最多の報告数で、2019年からは減少し始めていた。しかし、2022年に急増し、2018年の報告数を上回った。2023年は、1999年以降、最多の報告数となった。2024年は過去2番目に多かった。2025年も同水準で推移し、今なお流行中ではあるが、23週頃より増え方はどうかしてきている。



大阪府の年代別梅毒報告数の推移

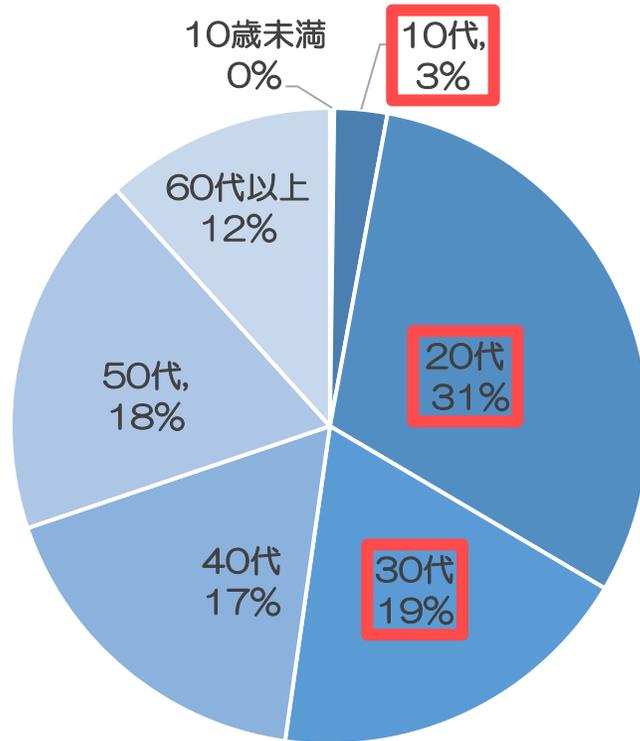
- 2010年からの推移をみると、2023年までは男性のほうが合計数は多かったが、2024年は女性のほうが多く1,000人を超えた。
- 特に20代の女性の報告数の多さが目立つが、急激に増え出した2022年より、男性も20代にボリューム層がある。
- 女性については、10歳代の報告が2023年も2024年も100件近くみられる。



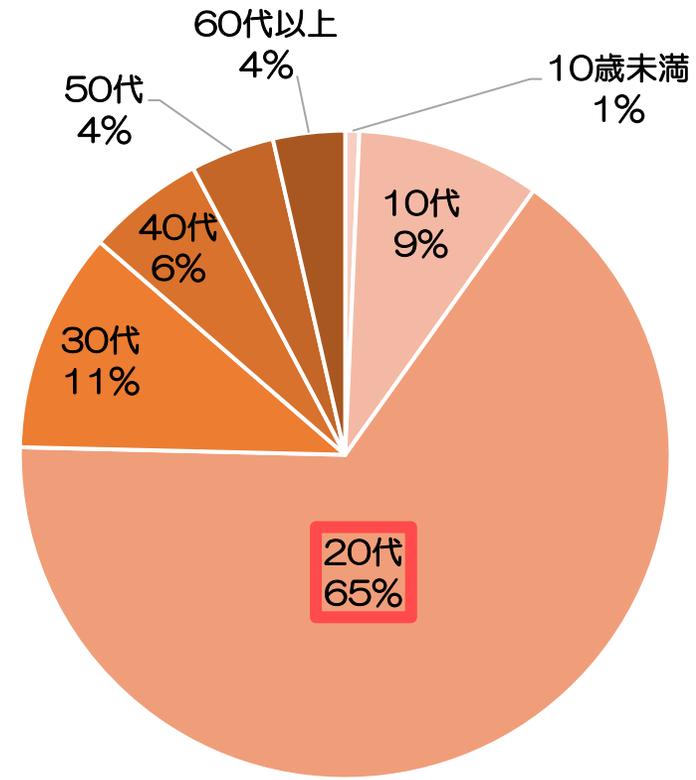
大阪府の性別年代別梅毒報告割合（2024年）

- 男性は10~30代の若年層で53%を占めており、女性については20代が65%と多くを占めた（10~30代の若年層の割合は85%）。
- 女性の10代は9%と、男性の10代と比較して割合が高かった。

男性 N=934



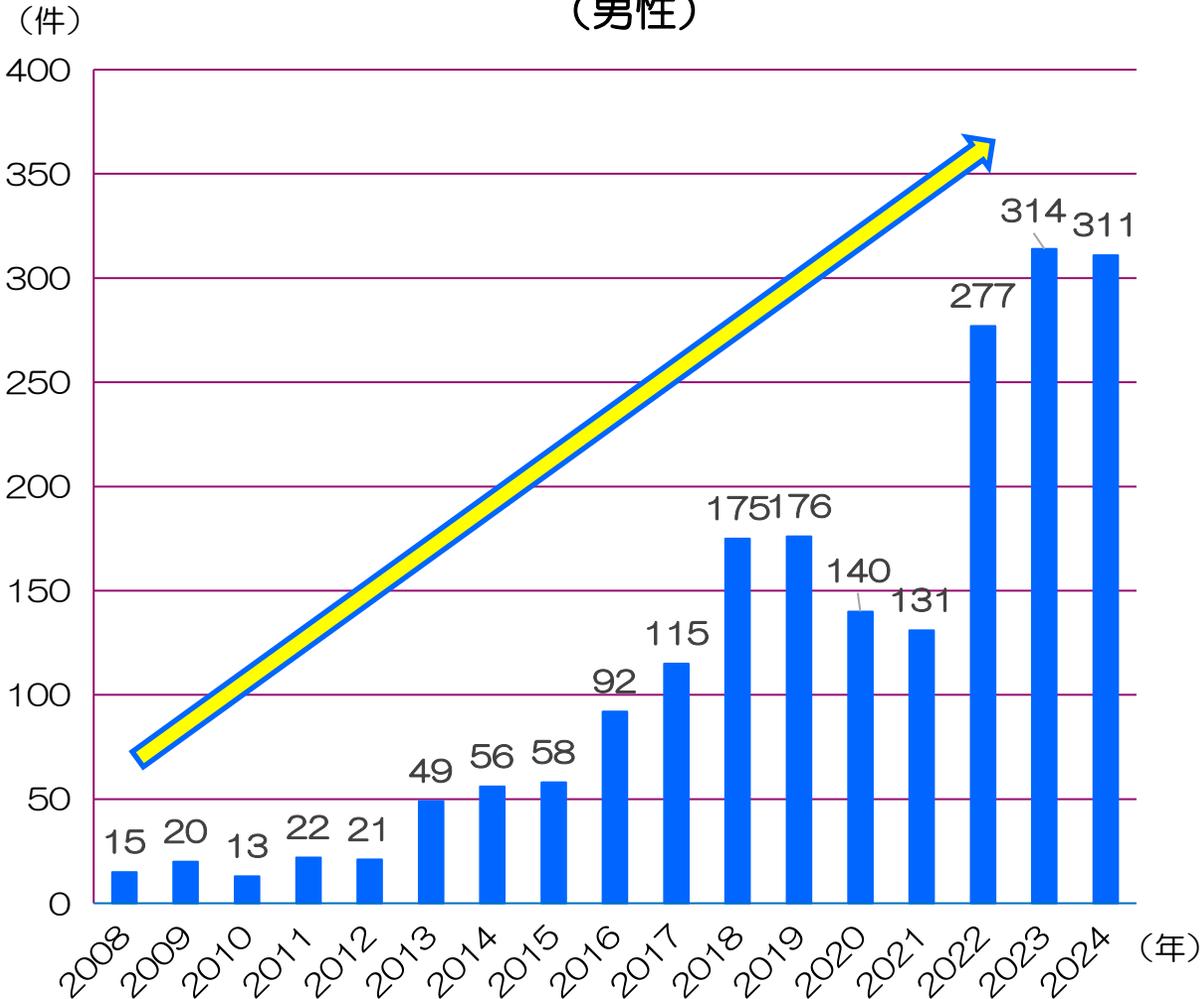
女性 N=1007



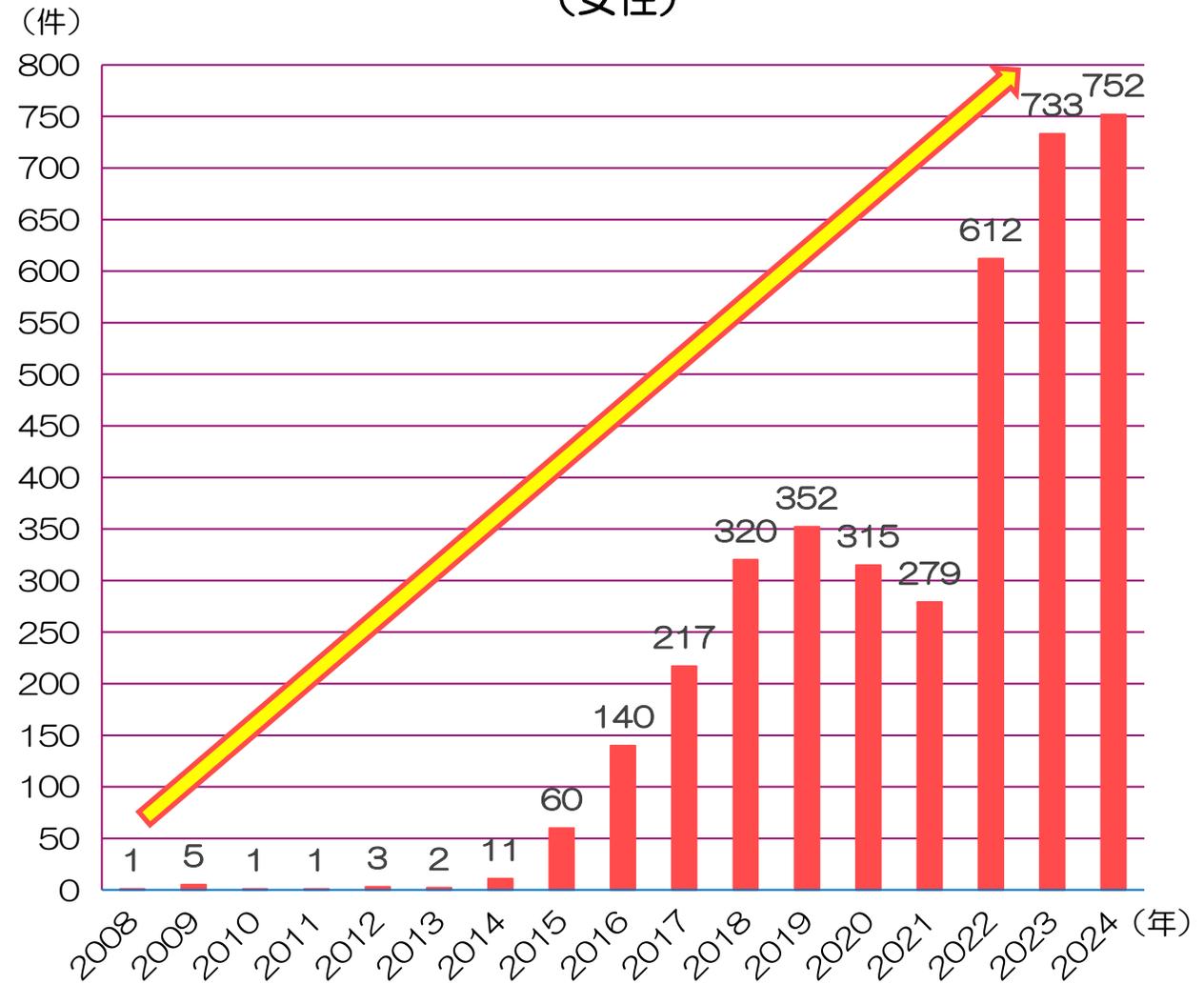
大阪府の10～20代の梅毒報告数の推移

- 男女とも、全報告数の上昇とともに、10～20代の報告数も増えている。
- 2014年までは男性の報告数のほうが多かったが、2015年からは女性の報告数が上回っている。
- 女性については、2024年と10年前を比較すると、約70倍増えている。

(男性)

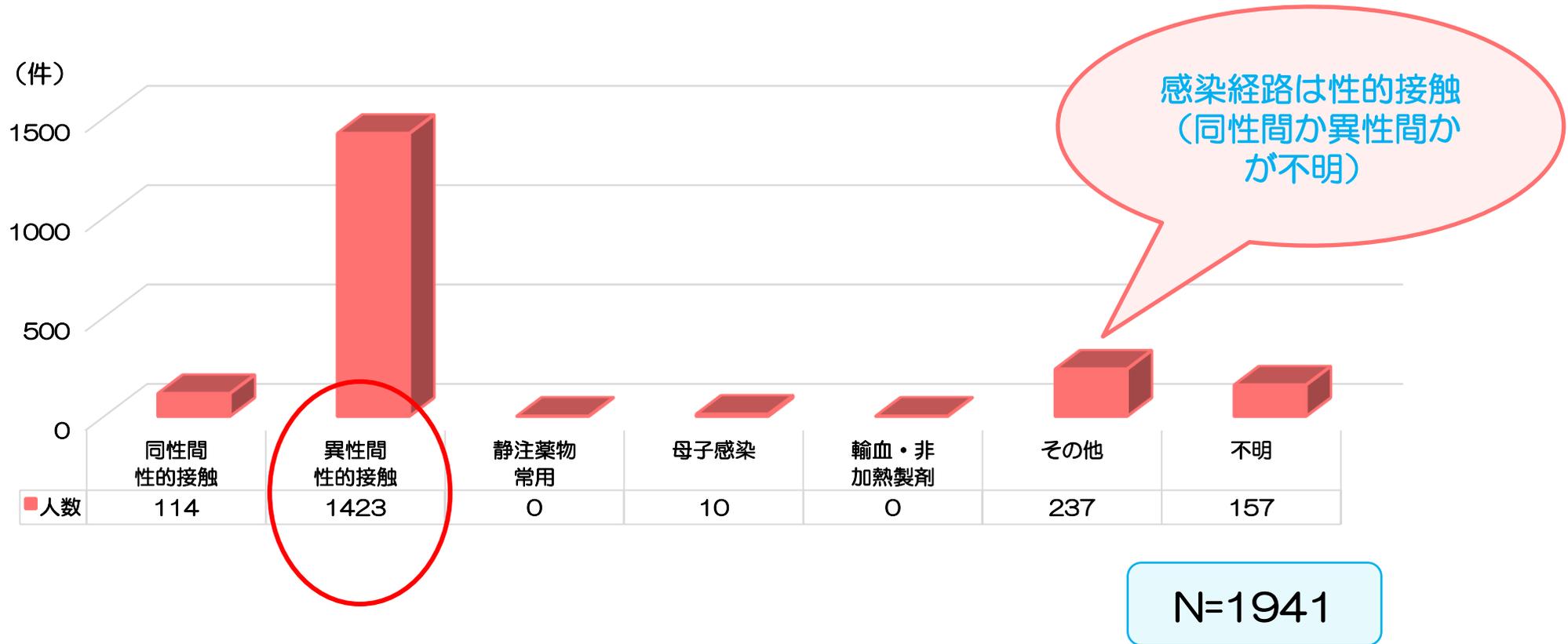


(女性)



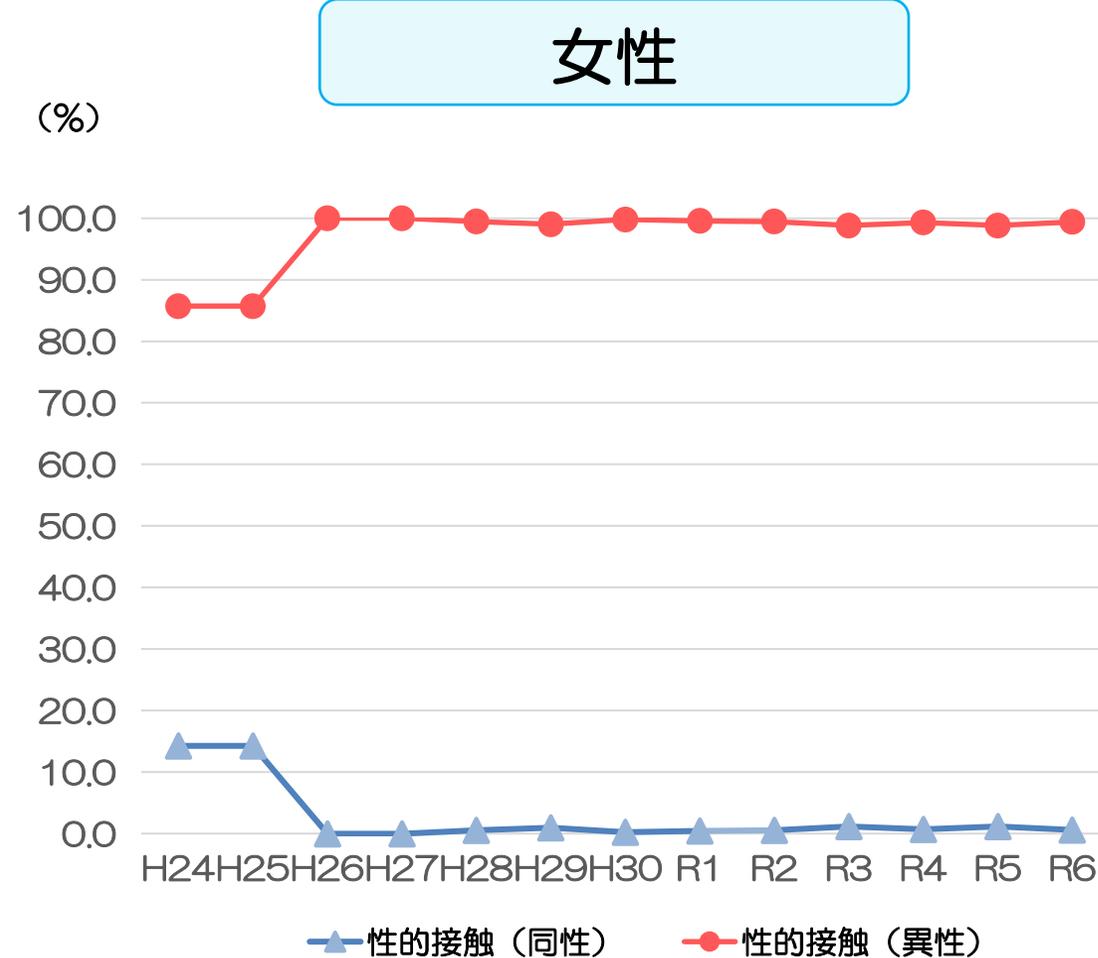
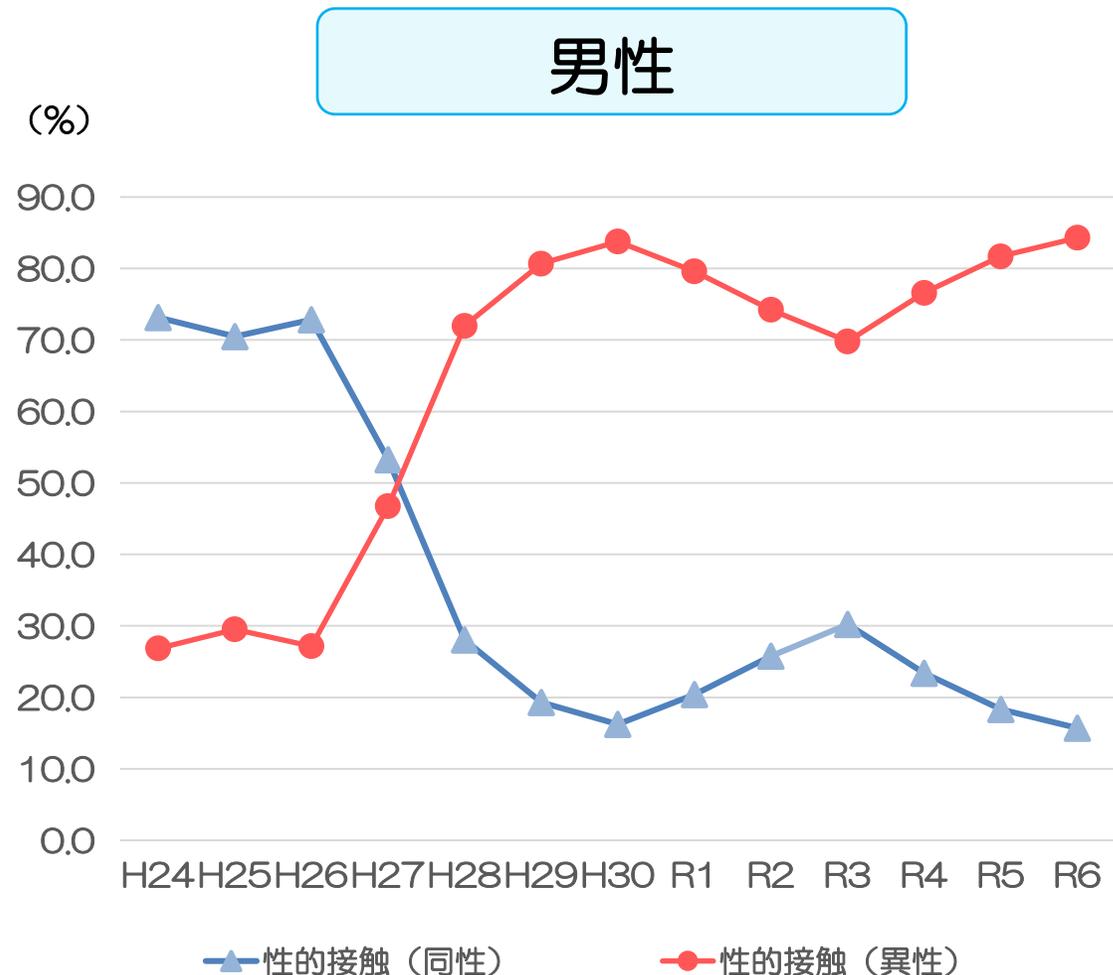
大阪府の感染経路別梅毒報告数（2024年）

- 「異性間性的接触」が多くを占めている。
- 母子感染も10件みられる。



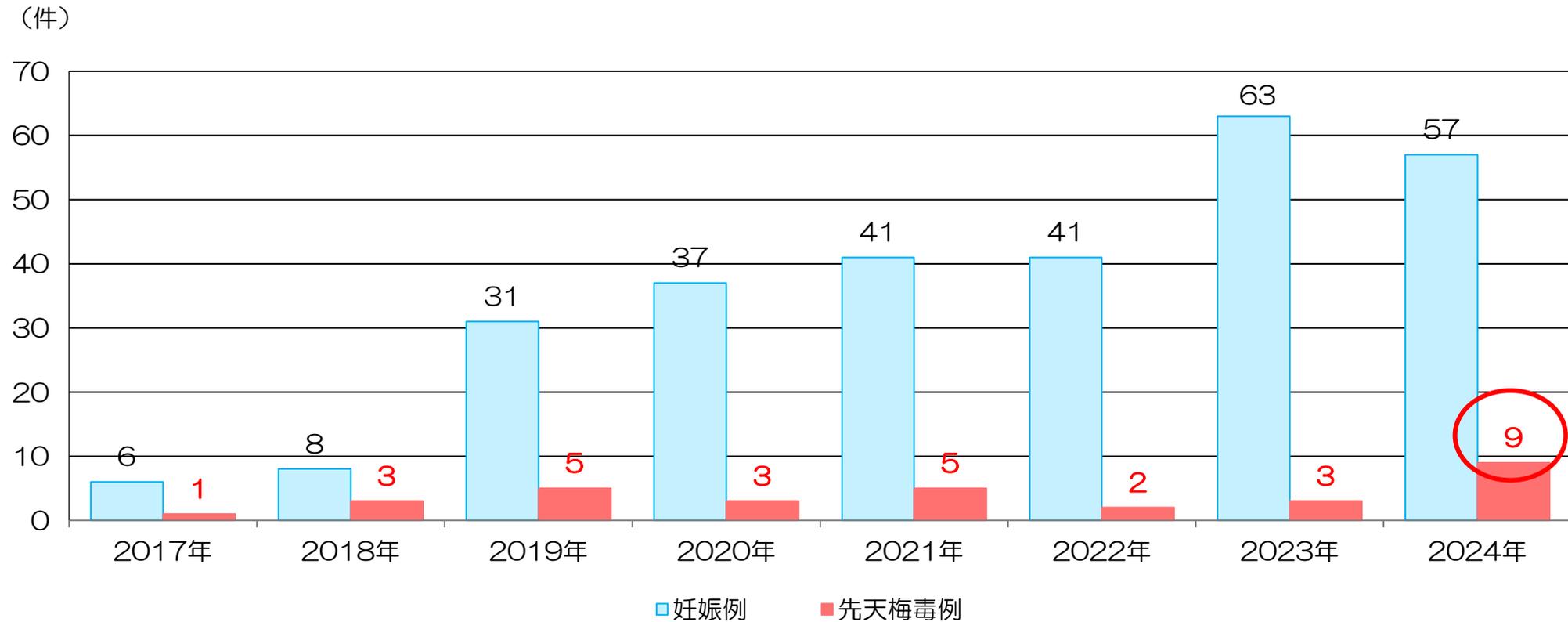
大阪府の性的接触の内容別梅毒報告割合の年次推移

- 女性は、大半が異性間性的接触である（2024年：同性間性的接触5件）。
- 男性は、H27年までは同性間性的接触のほうが多く報告されていたが、H28年以降は異性間性的接触の割合が多い状況。また、異性間性的接触が減少傾向の時期もあったが、令和3年からは増え続けている。



大阪府の妊娠梅毒例及び先天梅毒報告数の年次推移

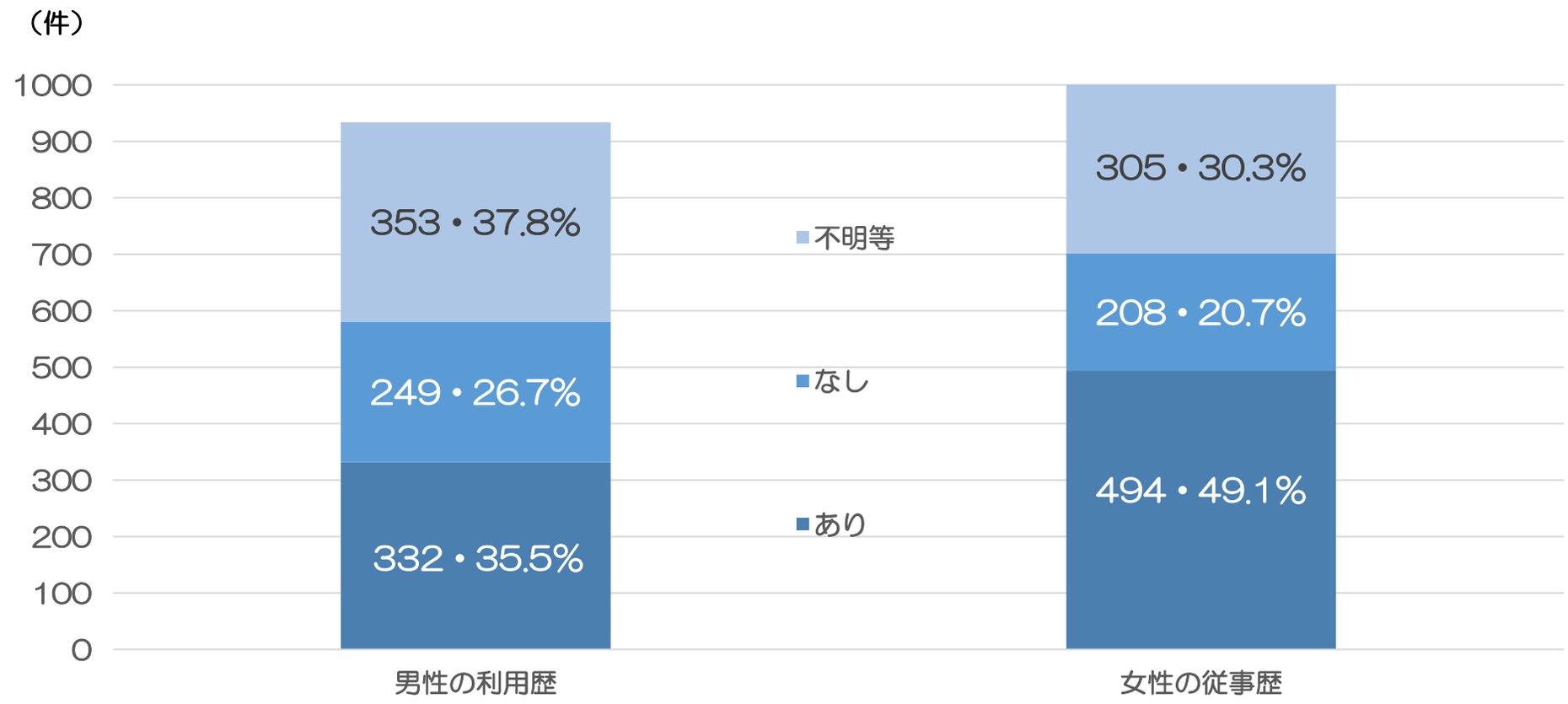
- 妊娠梅毒例は、2019年に急増し、2023年は2022年から53.7%の増加率だった。2024年も経年的にみると多い状況である。
- 先天梅毒例は、2018年以降、複数例みられていたが、2024年には9例の報告があった。



梅毒発生届規準：抗体検査の抗体価が16倍相当以上

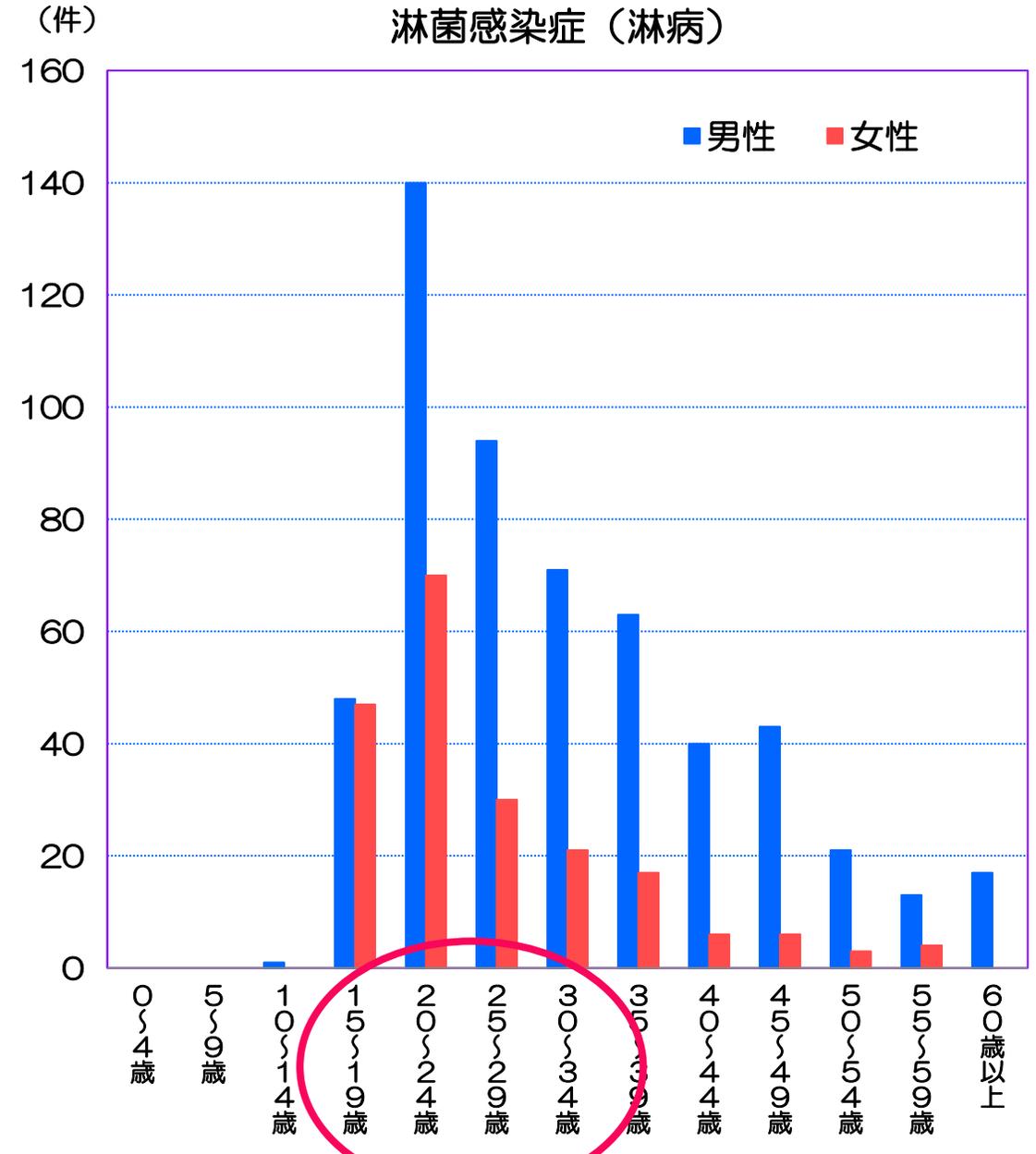
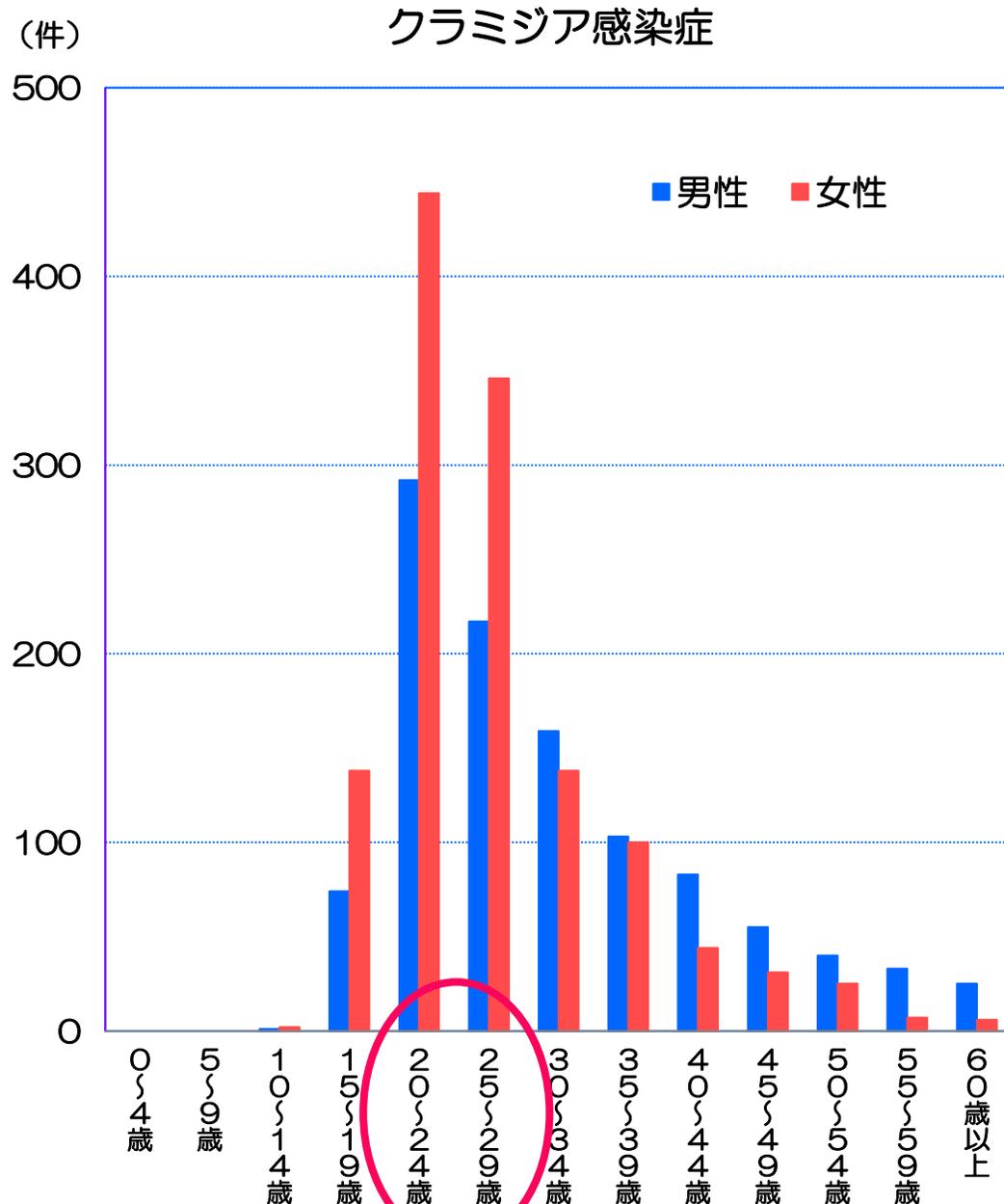
大阪府の梅毒発生者の直近6か月以内の性風俗利用・従事歴（2024年）

- 男性については、前年よりも利用歴の割合が増え、利用歴なしの割合が減った。
- 女性については、梅毒報告数が急増する前の2020年と比較すると従事歴の割合が高い状況ではあるが、前年と比較すると6.1ポイント減少。

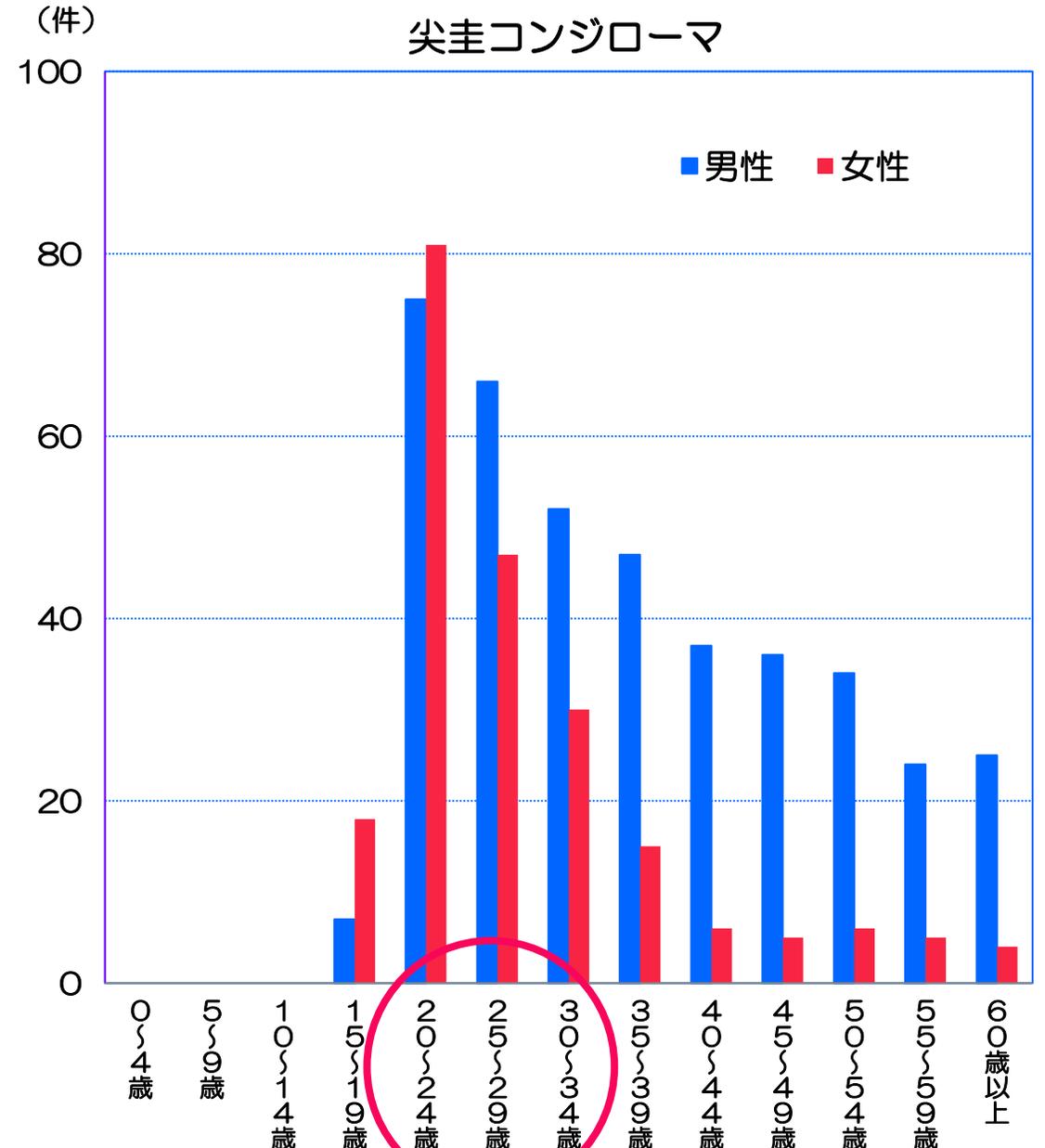
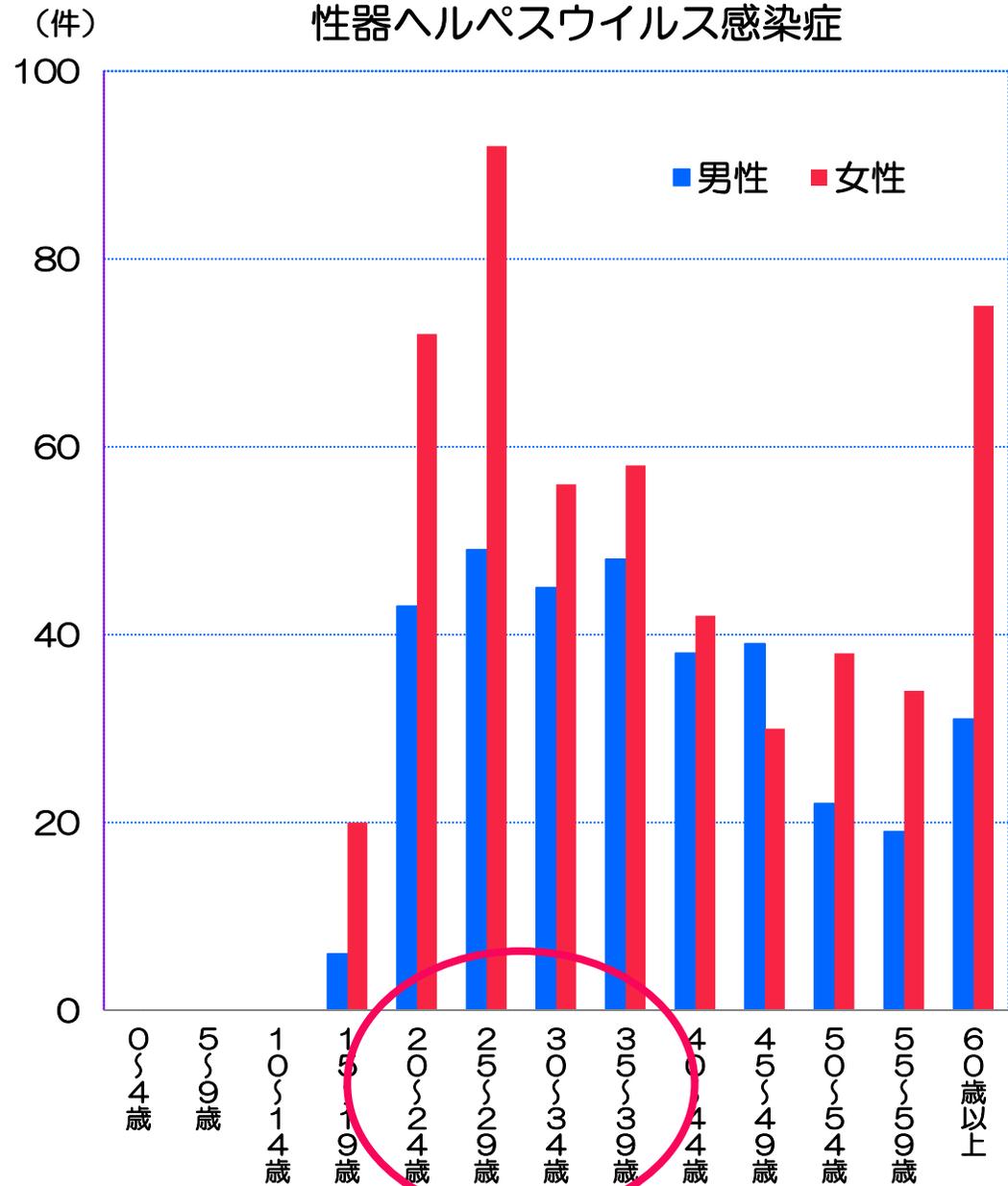


【男性】2023年：利用歴あり（32.4%）／利用歴なし（31.9%）
【女性】2023年：従事歴あり（55.2%）／従事歴なし（17.6%）
＜参考：大流行前＞2020年：従事歴あり（39%）／従事歴なし（33.7%）

大阪府のその他の性感染症の定点あたりの報告数（2023年）①

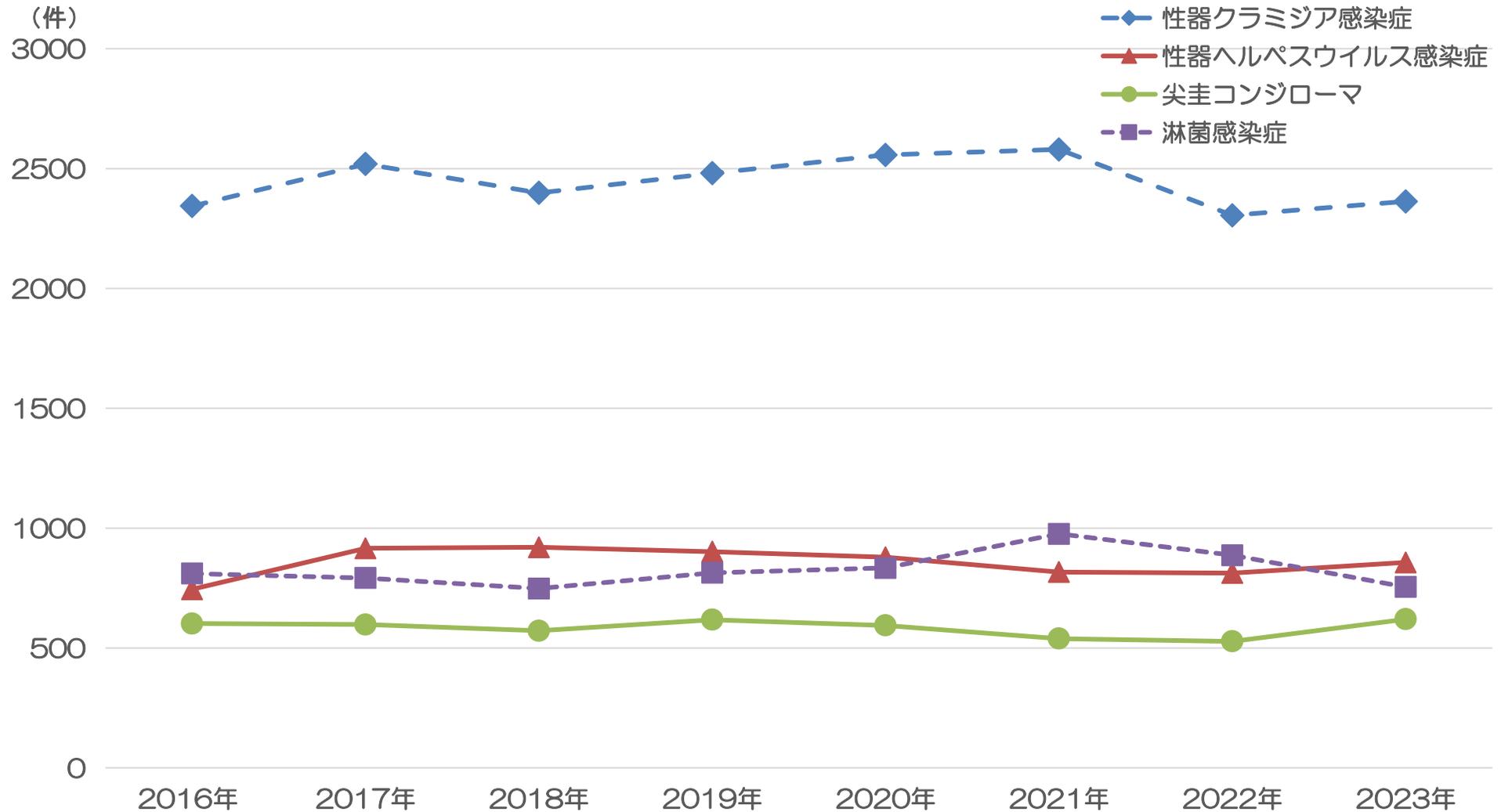


大阪府のその他の性感染症の定点あたりの報告数（2023年）②



性感染症定点報告数の推移（2016年～2023年）

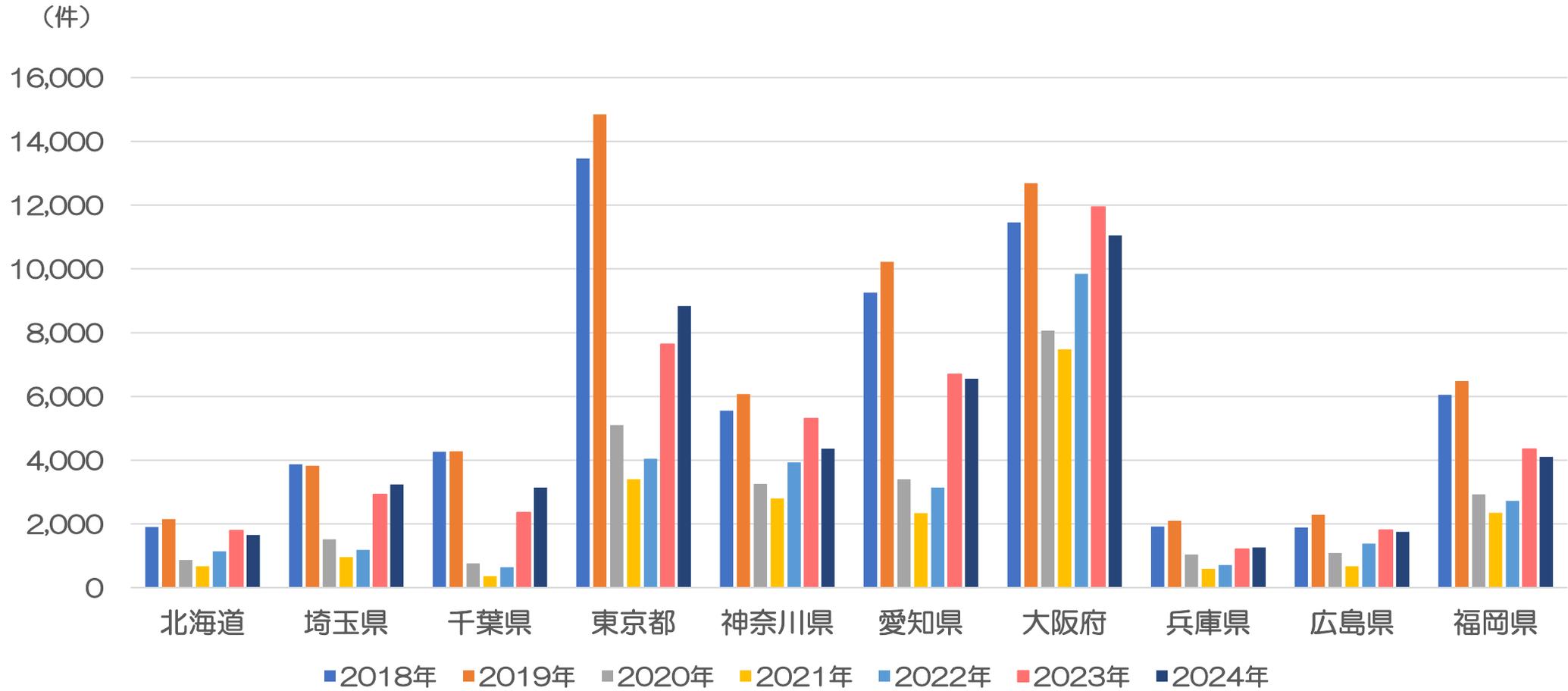
●いずれの疾患も大きな変動なく推移している。性器クラミジア感染症・淋菌感染症は減少傾向である。



受検者数の推移

保健所等における血液検査件数の年次推移（主な都道府県） <2018年～2024年>

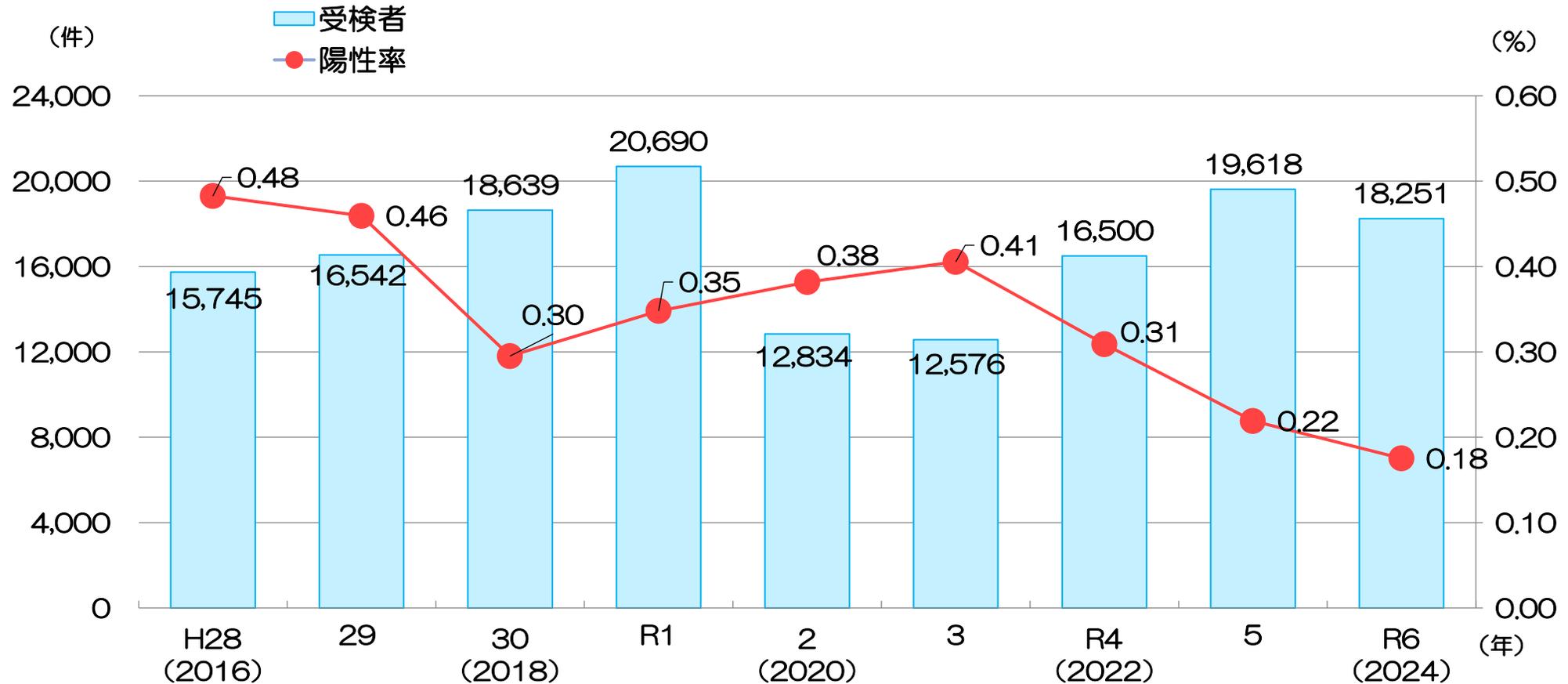
- コロナ禍の中、2020年・2021年は2019年と比較して約4割減少した。2022年は、前年から約3割増加したが、コロナ禍前の状態までは戻らなかった。翌年の2023年には、他の自治体がコロナ禍前の状況までには回復しなかった中、大阪府は受検者数が回復した。2024年は前年より減少したが、主な都道府県の中で最も受検者数が多い。



※保健所等：都道府県、政令市・中核市（委託検査は含まない）

大阪府域のHIV検査受検者数及び陽性率の年次推移<2016年~2024年>

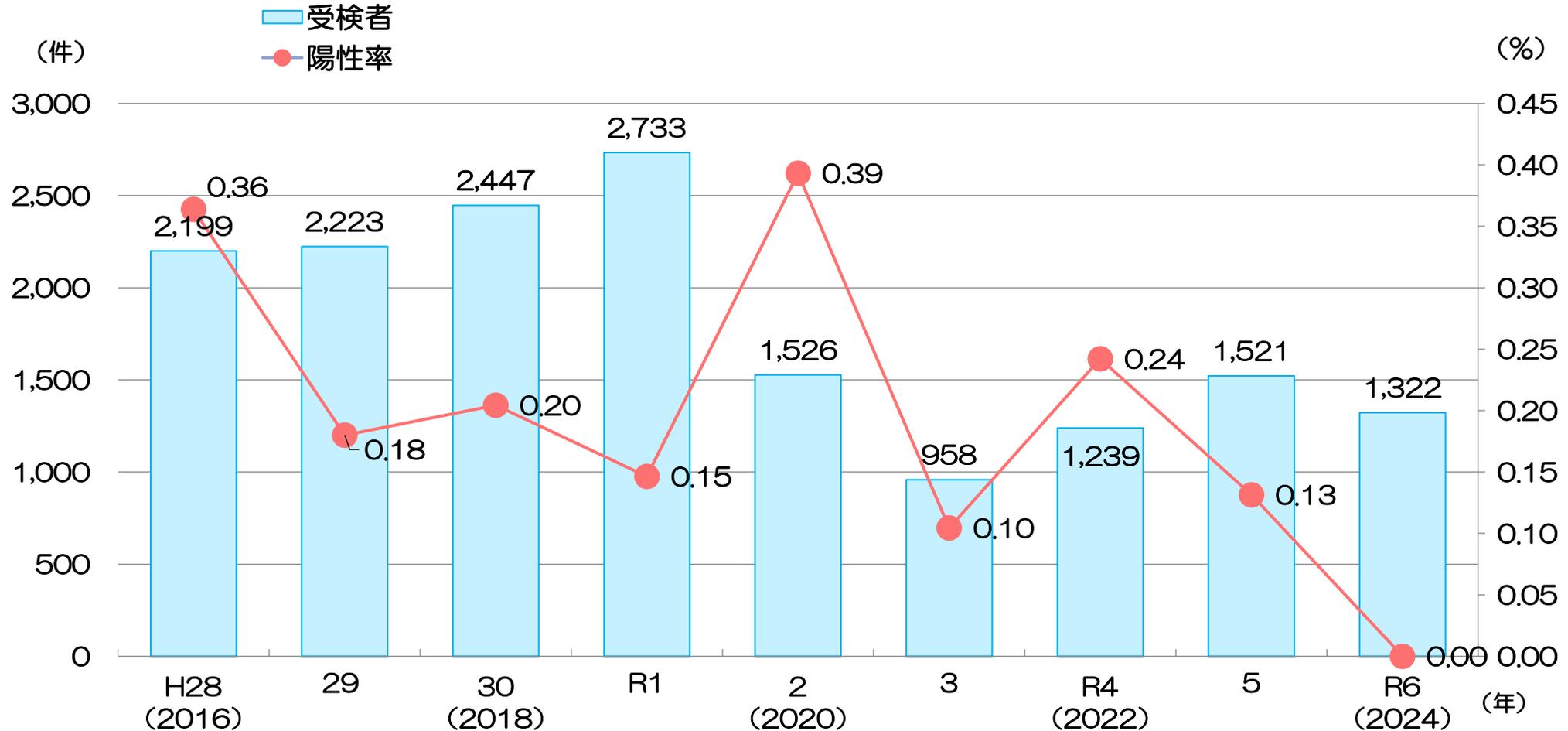
- コロナ禍の中、2020年・2021年の受検者は2019年と比較して約4割減少したが、2年で受検者数が戻り、2023年はコロナ禍前の2018年の受検者数を上回った。しかし、2024年は前年より1,367人減少した。
- HIV陽性率は、コロナ禍前の2018年より約0.3~0.4%で推移していたが、受検者数が回復すると同時に低下傾向がみられる。



※大阪府域：都道府県、政令市・中核市（委託検査も含む）

大阪府保健所のHIV検査受検者数及び陽性率の年次推移〈2016年～2024年〉

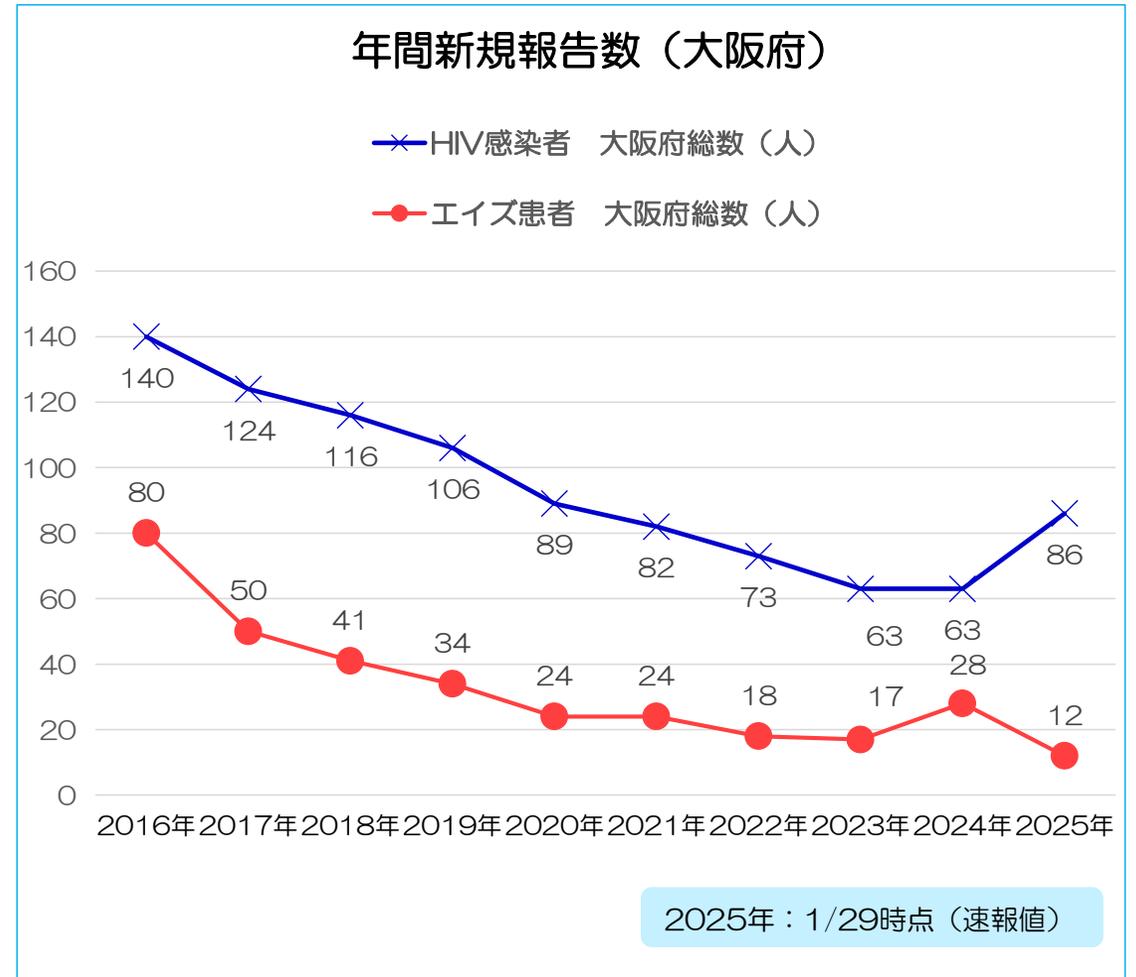
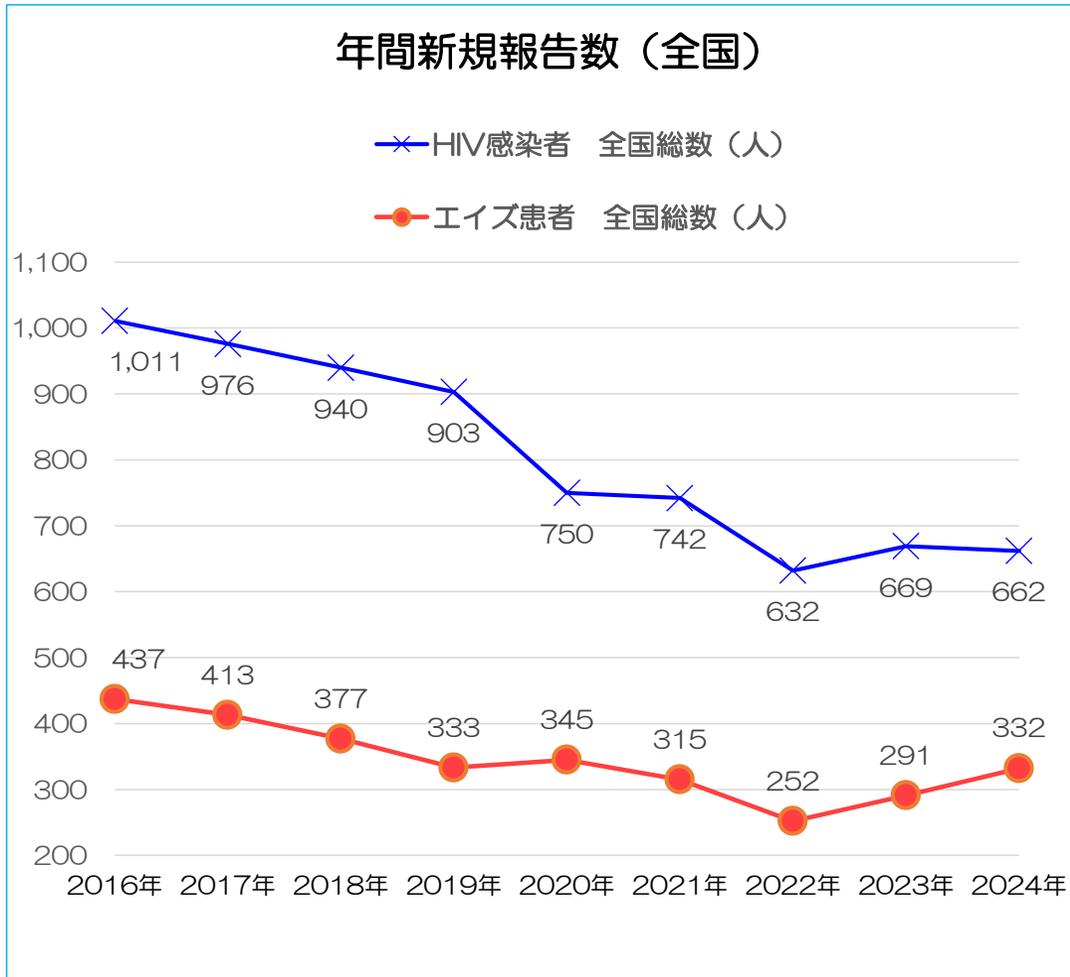
- コロナ禍の中、2019年の受検者数と比較すると、2020年の減少率は約44%、2021年の減少率は約65%だった。受検者数は2022年より回復傾向はみられるが、2023年・2024年もコロナ禍の2020年に及ばなかった。
- HIV陽性率は、0.10～0.39の間で推移していたが、2024年は大阪府保健所においては0人だった。



大阪府のHIV／エイズ・
の発生動向（抜粋版）

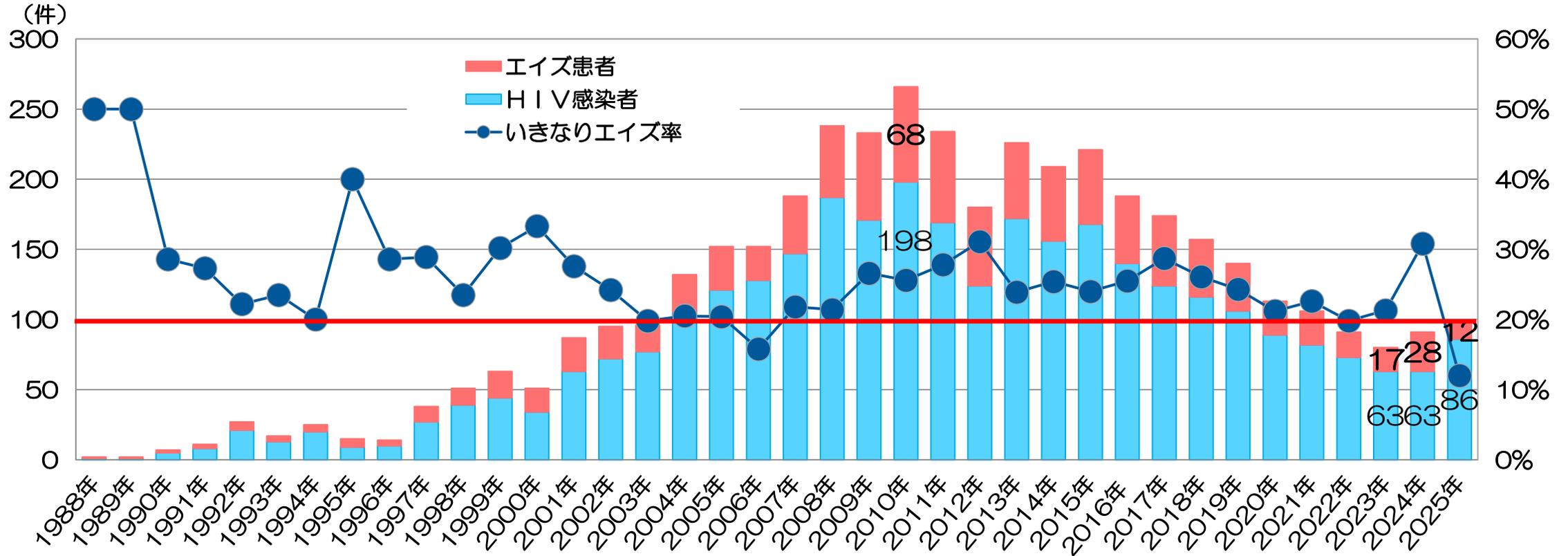
年間新規報告数の推移（全国と大阪府の比較）＜2016年～2024年＞

●全国については、HIV感染者もエイズ患者も減少傾向にあったが、2023年にどちらも増加し、エイズ患者については、2024年もさらに増加。大阪府も国と同様に減少していたが、エイズ患者については2024年に増加。ただ、2025年はこの10年間では最も低値になる見込み。



大阪府の新規HIV感染者・エイズ患者報告数及び「いきなりエイズ率」の推移

●2022年より、HIV感染者とエイズ患者の合計数が100人未満（20年前の2003年以来）となっているが、2024年は、エイズ患者数が増えたことで前年よりも合計数が11人増え、「いきなりエイズ率」が9.5ポイント増加した。2025年は、12/7時点の見込として、20%を下回ることが想定される。

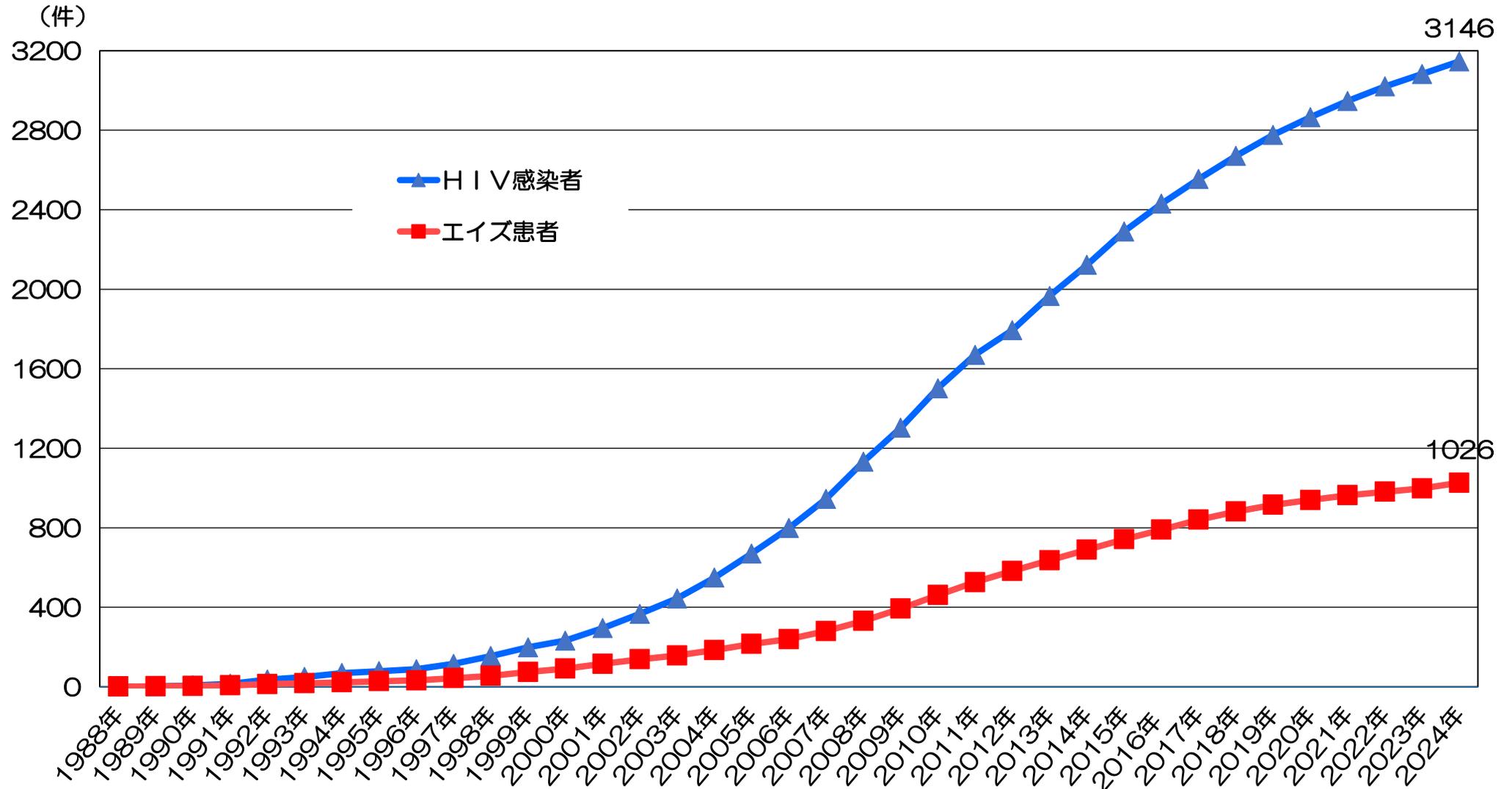


HIV感染者とエイズ患者の合計報告数に占める「エイズ患者の割合」

【大阪府】2020年 (21.2%) → 2021年 (22.6%) → 2022年 (19.8%) → 2023年 (21.3%) → 2024年 (30.8%) → 2025年 (12%)
 【全国】2020年 (31.5%) → 2021年 (29.8%) → 2022年 (28.5%) → 2023年 (30.3%) → 2024年 (33.4%) 1/29時点 (速報値)

大阪府の新規HIV感染者・エイズ患者報告数の累計

●2024年の累計報告数は、HIV感染者で3,146人、エイズ患者で1,026人となっている。



HIV感染者上位自治体（2023年と2024年の比較）

●大阪府の2023年と2024年の状況を比較すると、報告数・人口10万対とも数値は変わらないが、2024年は、人口10万対で4位から2位になり、どちらの値も東京に次いで多い状況。

2023年	自治体	報告数	2023年	自治体	人口10万対
1	東京都	247	1	東京都	1.75
2	大阪府	63	2	福岡県	0.88
3	愛知県	58	3	愛知県	0.78
4	福岡県	45	4	大阪府	0.72
5	神奈川県	34	5	茨城県	0.54
6	北海道	26	6	沖縄県	0.54
7	茨城県	18	7	岐阜県	0.52
7	千葉県	18	8	北海道	0.51
9	埼玉県	15	9	長野県	0.47
10	静岡県	13	10	鹿児島県	0.45

2024年	自治体	報告数	2024年	自治体	人口10万対
1	東京都	227	1	東京都	1.60
2	大阪府	63	2	大阪府	0.72
3	愛知県	47	3	福岡県	0.71
4	神奈川県	41	4	岐阜県	0.68
5	福岡県	36	5	栃木県	0.64
6	北海道	29	6	愛知県	0.63
7	千葉県	18	7	北海道	0.58
8	静岡県	18	8	茨城県	0.57
9	埼玉県	17	9	大分県	0.55
10	茨城県	16	10	群馬県	0.53
10	兵庫県	16			

エイズ患者上位自治体（2023年と2024年の比較）

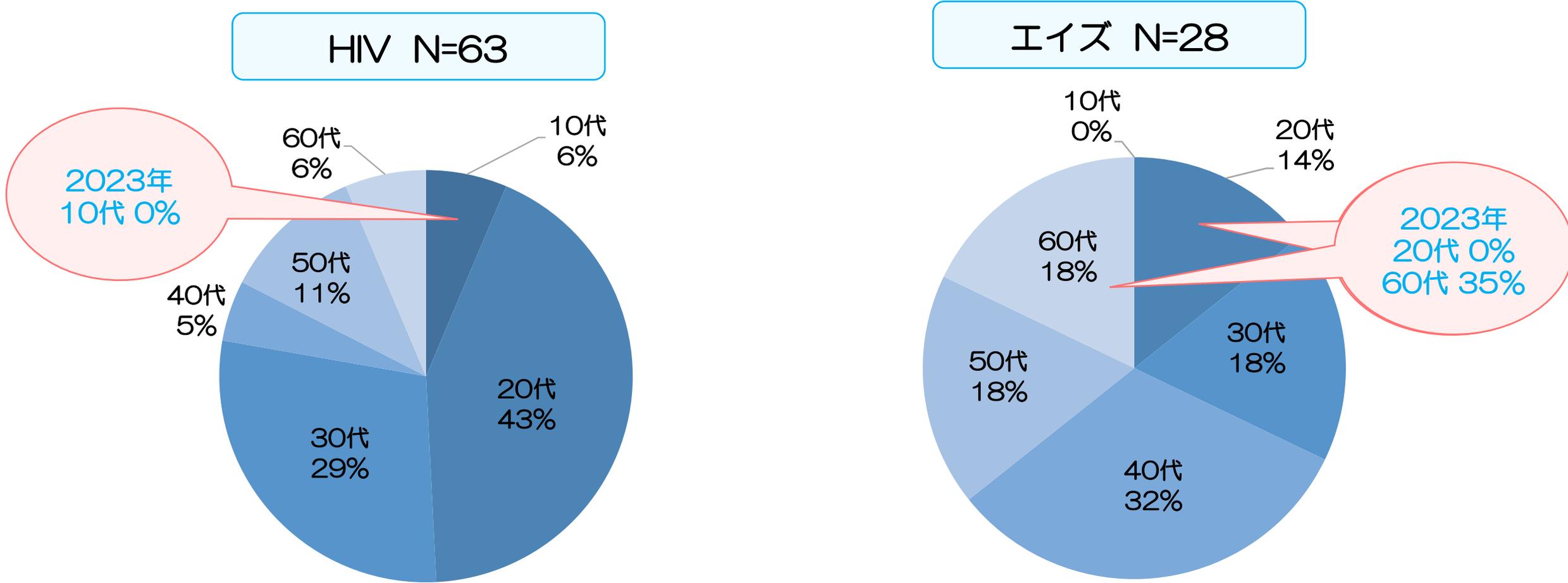
- 大阪府の2022年と2023年の状況を比較すると、報告数は減少し、順位が3位から4位に下がった。
- 人口10万対の報告数は、2022年と同じく、2023年も上位自治体には入らなかった。

2023年	自治体	報告数	2023年	自治体	人口 10万対
1	東京都	55	1	佐賀県	0.63
2	愛知県	27	2	沖縄県	0.48
3	千葉県	18	3	香川県	0.43
4	北海道	17	4	熊本県	0.41
4	埼玉県	17	5	東京都	0.39
4	大阪府	17	6	山口県	0.39
7	神奈川県	16	7	大分県	0.36
8	福岡県	14	8	愛知県	0.36
9	兵庫県	8	9	青森県	0.34
10	熊本県	7	10	北海道	0.33
10	沖縄県	7			

2024年	自治体	報告数	2024年	自治体	人口 10万対
1	東京都	63	1	高知県	0.61
2	大阪府	28	2	沖縄県	0.48
3	神奈川県	23	3	東京都	0.44
4	愛知県	22	4	茨城県	0.43
5	福岡県	20	5	栃木県	0.42
6	埼玉県	16	6	福岡県	0.39
6	千葉県	16	7	佐賀県	0.38
8	茨城県	12	8	和歌山県	0.34
9	兵庫県	10	9	大阪府	0.32
10	静岡県	9	10	長崎県	0.32

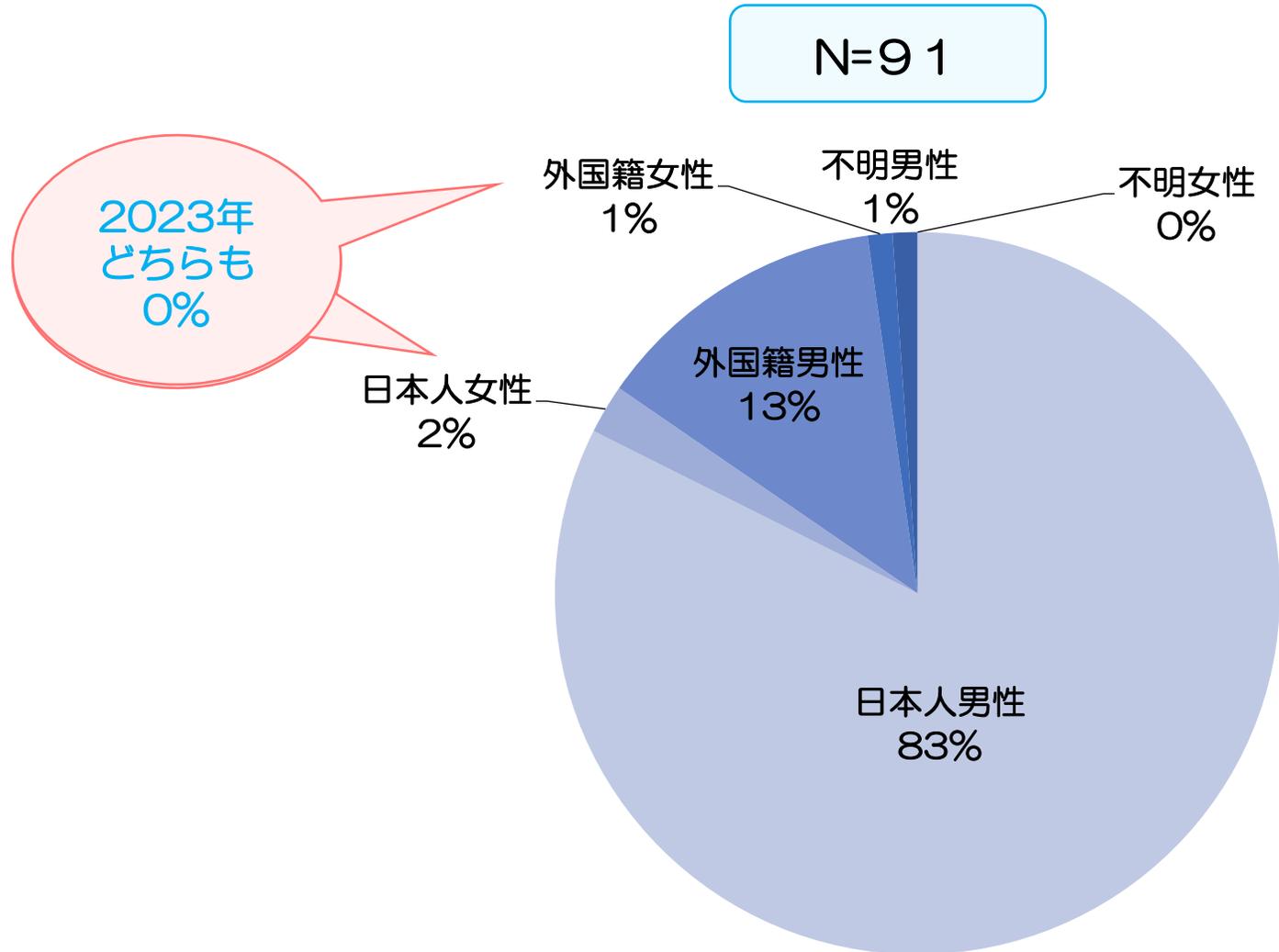
大阪府の年代別HIV感染者・エイズ患者の報告数（2024年）

●HIV感染者は、エイズ患者と比較して、10～30代の若年層の占める割合が約8割と多い。



大阪府の性別・国籍別HIV感染者・エイズ患者の報告割合（2024年）

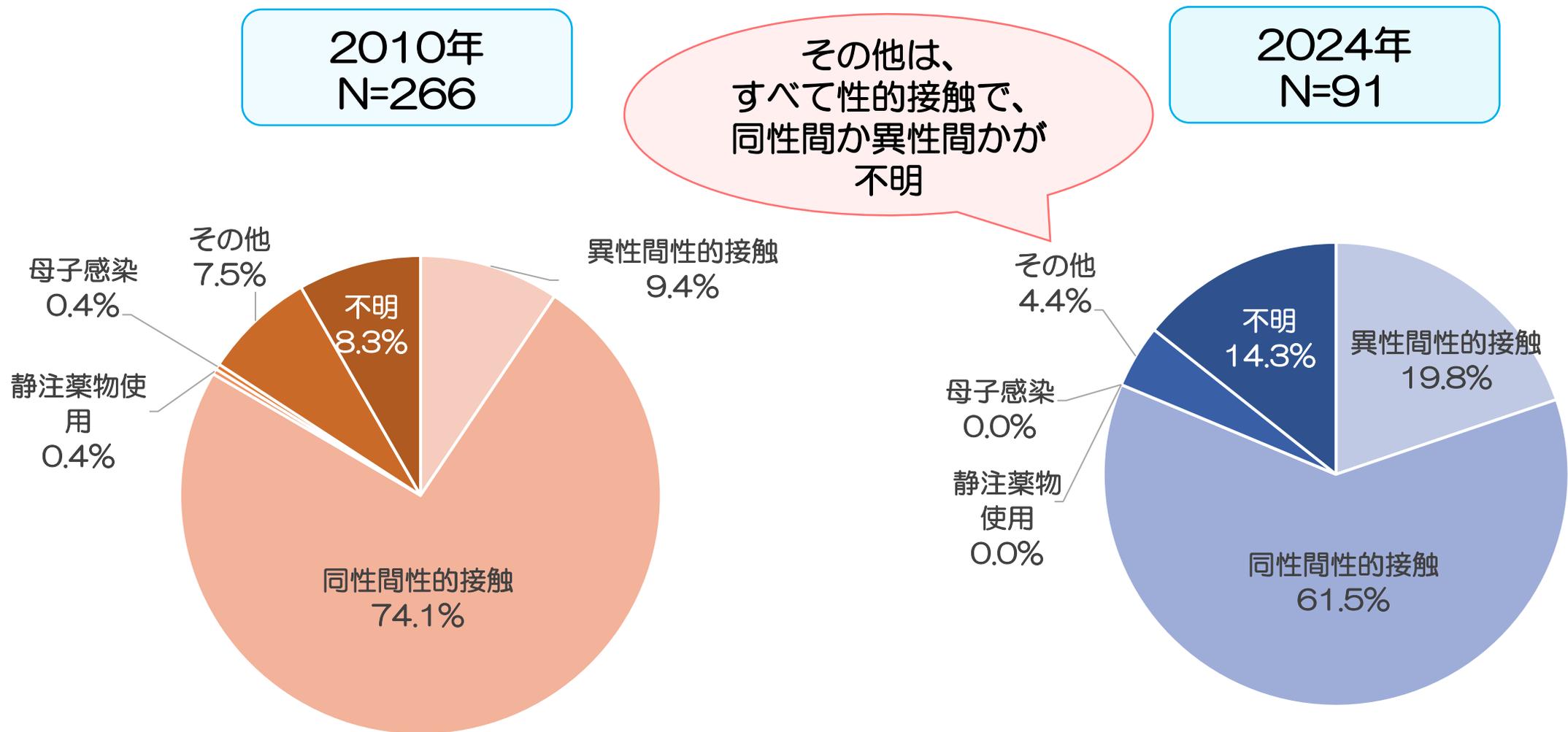
- 日本人男性が83%と多くを占めている。



※不明：発生届の「国籍」欄において、「不明」が選択されている場合

大阪府の感染経路別HIV感染者・エイズ患者報告割合の比較

- 過去最大の報告数だった2010年と、2024年の感染経路を比較すると、どちらも「同性間性的接触」が多くを占めているが、2024年のほうが「異性間性的接触」の割合が多くなっている。
- 母子感染・静注薬物使用についてみると、2024年は「0.0%」である。



大阪府のHIV／エイズ・梅毒 予防対策

正しい知識の普及・啓発

相談指導体制の充実

検査体制の充実

支援（医療・介護）体制の充実

HIV／エイズ

令和6年度 エイズ予防週間実行委員会の取組（1） ・ ・ 動画の活用



検査の流れの紹介動画

① You tube 広告配信（動画は令和4年度作製）

- * 配信期間：令和6年11月7日～12月6日（1か月間）
- * 配信対象：大阪府内在住の18～34歳
- * 配信秒数：30秒
- * 視聴回数：107,402回（100%再生）
- * クリック数：803回（リンク先へのクリック数）

② Instagram 広告配信（動画は令和4年度作製）

- * 配信期間：令和6年12月7日～令和7年1月10日（1か月間）
- * 配信対象：大阪府内在住の15～29歳
- * 配信秒数：30秒
- * 表示回数：900,885回
- * クリック数：1,654回（リンク先へのクリック数）

③ 啓発動画（QRコードを啓発資材に掲載）の提供

※啓発資材：エイズ予防週間実行委員会あるいは当課独自で作製

- ・ エイズ予防週間実行委員会では参画しているイベントの機会に一般府民へ配布
- ・ 各自治体（府保健所も含む）で関係機関や一般府民向けに配布
- ・ 当課において、教員向け研修会やイベントで配布



エイズ啓発動画

梅毒啓発動画

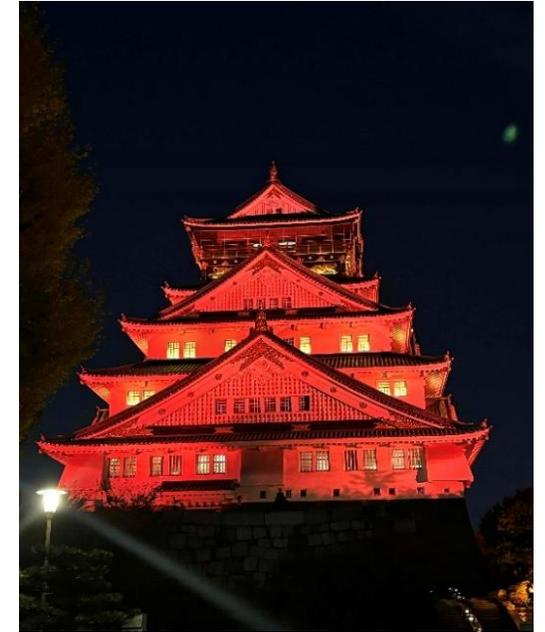
令和6年度 エイズ予防週間実行委員会の取組（２）・・・イベント（単独）



令和6年度



令和6年度



令和5年度

④セレッソ大阪試合会場での啓発ブースの設置

日 程：11月30日（土）
会 場：ヨドコウ桜スタジアム
内 容：＊エイズ啓発用パネル展示とクイズの実施
＊クイズ解答者への啓発グッズ（エイズ予防週間
実行委員会で作製しグッズ、リーフレット類、
セレッソグッズ）を配付
来場者：500人（クイズ実施者）

⑤大阪城天守閣ライトアップ

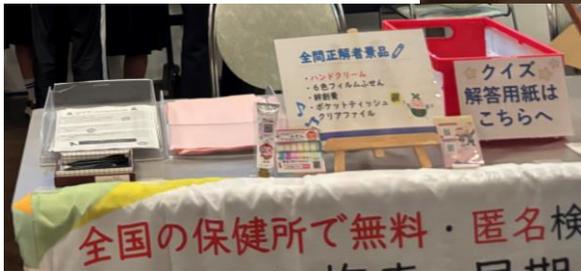
日 程：12月1日（日）
会 場：大阪城
内 容：＊世界エイズデーに、大阪のランドマークのひとつで
ある大阪城をレッドリボンの赤色にライトアップ
反 響：X（旧Twitter）で、「世界エイズデー」のことを
拡散する投稿が複数あり

⑥第32回日本エイズ学会学術集会記念啓発イベントへの参画

日 程：12月6日（金）・7日（土）
場 所：大阪市中央公会堂
内 容：【両日】来場者へ出入口のホールにて啓発資材を配付
【7日】啓発ブースの設置
来場者：約380人



来場者へ他の団体の配付物
とともに手渡す



啓発ブース



令和5年度作製：パネル（エイズ5種類、梅毒・性感染症各1種類）

※知事定例会見を活用しての、エイズ予防週間に実施するイベントの案内

⑦FM802「FUNKY MARKET」における啓発ブース出展への参画

日 程：10月27日（日）

場 所：万博記念公園 お祭り広場

内 容：啓発資材の配布

＊エイズ予防週間実行委員会で作製した啓発ティッシュの配布（他団体の啓発資材と一緒に配布）

＊HIV/エイズのパネル掲示によるクイズ解答者へ付せんを手渡す（エイズ予防週間実行委員会で作製）

大阪エイズウィークス参加団体による啓発資材の配布数：1,700セット

クイズ解答者：526人



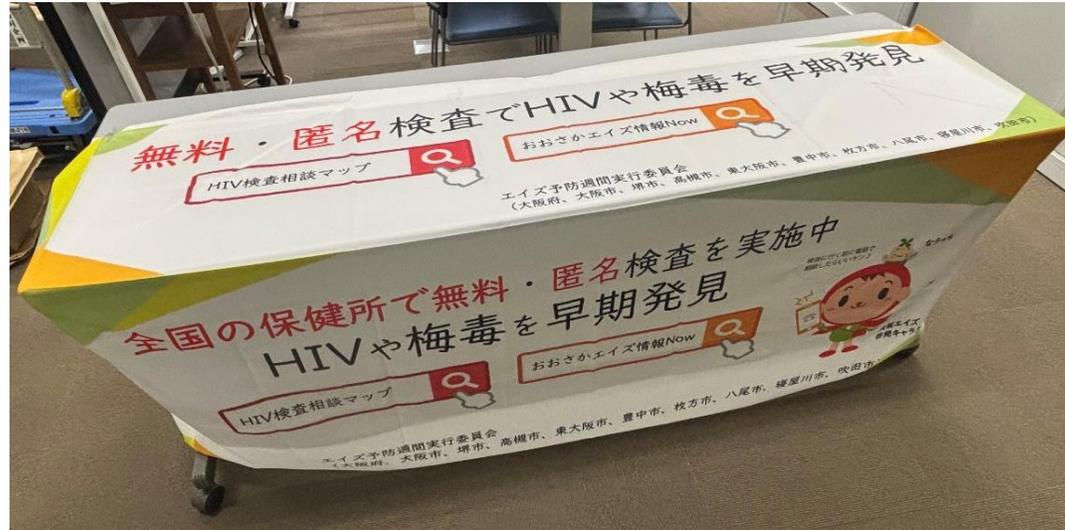
クイズ解答者へ
(200人)



来場者へ
(1,000人)

令和6年度 エイズ予防週間実行委員会の取組（４） ・ ・ 啓発資材の作製

テーブルクロス



フィルム付せん



ポケットティッシュ



その他の取組（令和6年度～令和7年度）



- 当課ホームページに掲載
- 福祉部障がい福祉室のホームページへ、集団指導資料の一部として掲載【継続実施】



- 大阪モノレール全車・全車両で動画放映（ドアの上のモニターの活用）：12月（3～4週間）【令和6年度】



- 企業との連携によるコンドームのパッケージの作製（HIV検査普及週間から10月にかけて配布予定）【令和7年度】

梅毒

①

①立命館大学 大阪いばらきキャンパス内のデジタルサイネージの活用（公民連携）

掲載期間：約1か月（レディースデーの案内）



②立命館大学 大阪いばらきキャンパス（公民連携）における、啓発資材にかかるアンケート調査の実施

ポータルサイトを活用して調査様式を配信（回収数403）
⇒本年度の啓発資材作製の資料として活用する予定

③大学への梅毒啓発リーフレットの送付（入学式やオリエンテーション時を活用しての新1年生への配付を依頼）

府保健所の協力を得て、府保健所管内の大学へアプローチ
⇒21大学の協力を得て、紙媒体あるいは電子媒体（ポータルサイトを活用しての学生への配信）

③



④教育庁と連携しての府立・私立高校への啓発・教育資材等の提供

資材の活用にかかる周知依頼文、動画（QRコードで提供）一覧及び発生動向の資料の送付

④



⑤研修会の活用

梅毒をテーマに教員対象の性感染症予防講習会を開催

令和6年度 個別施策層向けの取組

①梅毒展inグリ下（若年層、特に性風俗従事者及び利用者）

主催：大阪府

委託先：SWASH（性風俗従事者支援団体）

日時：10月18日 17:00～21:00

内容：展示物の掲示、ゲストを迎えての梅毒・検査等のトークショー、ノベルティグッズの配付、検査案内等

②街頭ビジョン（トンボリステーション）での啓発動画の放映

10月18日を挟む1週間に放映（①の広報も兼ねる）

③店舗型・非店舗型性風俗特殊営業施設への梅毒啓発

啓発依頼文、梅毒啓発リーフレット、検査・相談場所一覧表、ノベルティグッズ（絆創膏）の送付

④レディースデー（女性スタッフによる女性向け検査）への案内

SWASH（性風俗従事者支援団体）に、性風俗従事者への広報を依頼

②



①



③でも活用

令和6年度 一般府民向けなどの取組

①大阪信用金庫の店舗、大阪モノレール、大阪駅前地下道の車両のデジタルサイネージの活用

掲載期間：1か月または1週間程（大阪駅前地下道）

②シネアドCM広告

12月13日～12月19日（はたらく細胞：2劇場）

2月14日～2月20日（トリリオンゲーム：2劇場）

③啓発動画のSNS配信（ターゲット：若年層）

You tube広告配信：1月18日～2月16日

TikTok広告配信：2月28日～3月30日

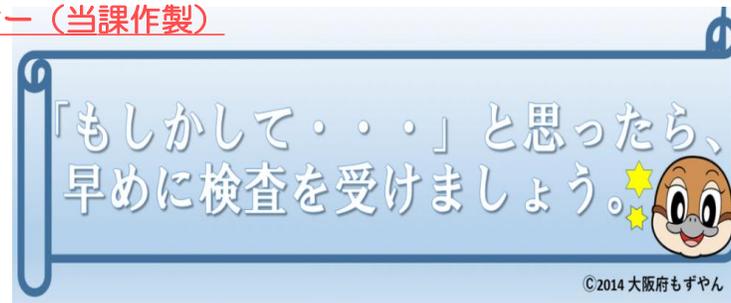
④【予定】産婦人科医会の協力を得ての産婦人科医・妊婦・若年層への啓発依頼

対象者への啓発依頼文（関係サイトの案内）、動画・検査場所QRコードで提供）一覧及び発生動向の資料の送付



大阪府梅毒ホームページの作成

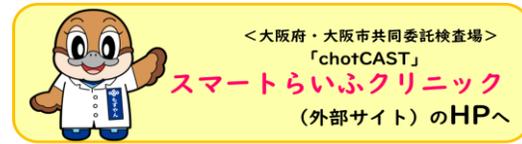
☆啓発バナー（当課作製）



☆「バイバイ😊bai-doku ずっと笑顔でいよう」（当課作製）



大阪府におけるHIV・梅毒等検査・相談場所一覧表の掲載



バイバイbai-doku（梅毒啓発チラシ）（当課作製）

☆啓発動画「梅毒編」（エイズ予防週間実行委員会作成） ☆啓発動画「HIV・梅毒等検査紹介編」（エイズ予防週間実行委員会作成）



※エイズ予防週間実行委員会作製（大阪府、大阪市、堺市、高槻市、東大阪市、豊中市、枚方市、八尾市、寝屋川市、吹田市）

正しい知識の普及・啓発

相談指導体制の充実

検査体制の充実

支援（医療・介護）体制の充実

1) エイズ相談事業

府保健所及び医療・感染症対策課において対応

(対象者は陽性者だけでなく、パートナー・家族関係者など幅広い)

2) 保健所における相談・指導体制の充実

* エイズ対策研修への推薦 (国立保健医療科学院主催)

* その他のHIV/エイズに係る研修会の案内

3) 外国人電話相談事業 (NPO法人 CHARMへ委託)

外国人への相談窓口として、大阪市と共同で実施

火曜日・・・英語、スペイン語、ポルトガル語

水曜日・・・中国語

木曜日・・・英語

R6年度の実績：153日間 131件

4) エイズカウンセラー派遣事業

対象者

大阪府内の医療機関で診療を受けているHIV陽性者
(HIV陽性告知を受ける人も含む) 及びその家族やパートナー

派遣依頼

- ①医療機関の主治医から派遣依頼
- ②保健所での外国人への陽性告知時
(対応可能言語：英語・ポルトガル語・スペイン語)

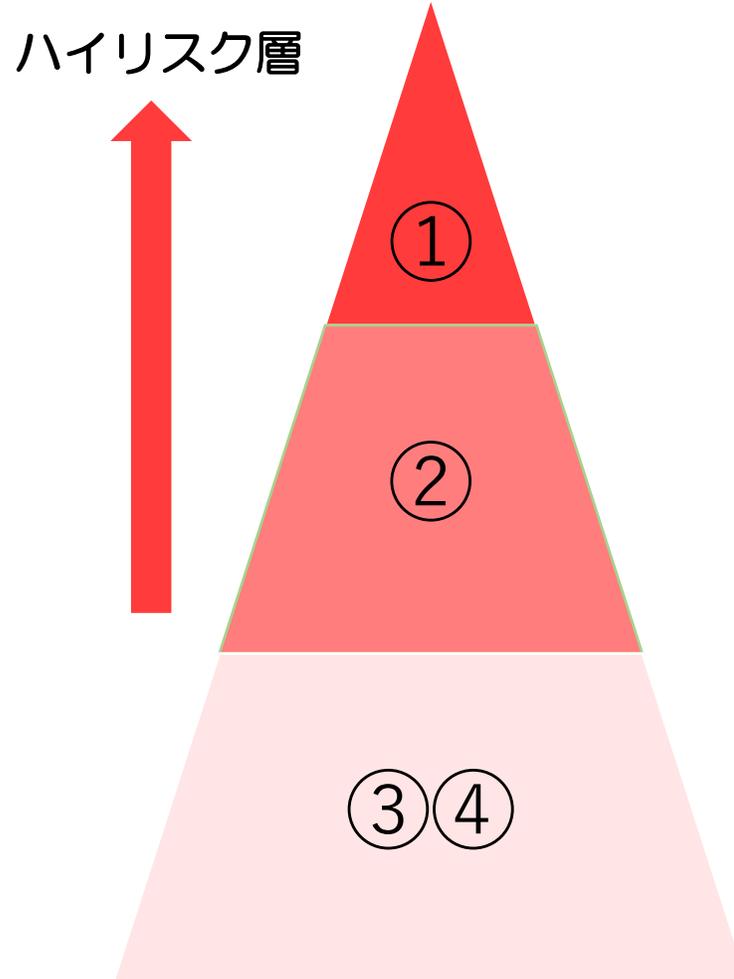
正しい知識の普及・啓発

相談指導体制の充実

検査体制の充実

支援（医療・介護）体制の充実

大阪府のHIV・梅毒等検査体制



①～③：無料・匿名検査

①大阪府クリニック検査（クリニック検査キャンペーン）

* 個別施策層MSM（男性と性的接触を行う男性）に限定した検査

②chotCAST検査（大阪市との共同事業）〔対象者の限定はなし〕

* 就労者・学生などに配慮した利便性の良い検査

通常検査：火曜日の夜間

即日検査：木曜日の夜間、土・日曜日の昼間（Webで予約）

（※上記に加えて、大阪府独自で女性スタッフによる女性向けの「レディースデー検査」を実施）

③保健所検査〔対象者の限定はなし〕

* 広く府民の相談・検査の受け皿としての検査

通常検査5か所・即日検査4か所：月～木曜日の昼間

④郵送検査（令和7年11月より開始）

各検査場での実施状況（2024年の状況）

①クリニック検査キャンペーン（外部委託）

- ・無料・匿名、HIV・梅毒・B型肝炎の即日検査
- ・協力医療機関：大阪府内の11診療所
- ・8～9月（6週）、11～12月（中止：I期に想定を大幅に超える受検者あり）の診療時間内で実施

②chot CAST 検査（外部委託：大阪市との共同事業）

無料・匿名、各曜日定員50名、HIV・梅毒・B型肝炎の検査

火曜日（夜間） 通常検査（先着）

木曜日（夜間） 即日検査（R3年4月～Web予約制）

土・日曜日（昼間） 即日検査（R3年4月～Web予約制）

（「レディースデー検査」：8～11月の第4月曜日に計4回実施、定員50名）

③府保健所検査

無料・匿名

4保健所でHIV・梅毒の即日検査

5保健所でHIV・梅毒・クラミジアの通常検査

・「保健所等におけるHIV検査・相談のガイドライン」（令和6年3月版）参照

各検査場における外国人支援

①クリニック検査キャンペーン（外部委託）

※予算：本事業の委託料の一部を使用

非公表（対象機関のみに公表）：陽性告知時の医療通訳者の派遣（R3年度～開始：実績なし）

【対象機関】クリニック検査協力診療所（委託検査実施期間中）

②chot CAST 検査（外部委託：大阪市との共同事業）

公表：令和5年度 第1日曜日（即日検査）の偶数月に中国語・英語、
奇数月にベトナム語・英語の医療通訳者を派遣

※令和6年度より、毎月、中国語・ベトナム語へ変更

非公表：確認検査実施受検者に対して医療通訳者（多言語）を派遣

【対象】確認検査で陰性だった受検者も含む

③府保健所検査

※①クリニック検査キャンペーンの予算を使用

非公表：陽性告知時の医療通訳者の派遣（R4年度～開始）

R4年度：外国人受検者10人、R5年度：外国人受検者2人、R6年度：外国人受検者14人

<外国人向け資材の作製>

*「おおさかエイズ情報Now（ポケット版）」、「もっとよく知ろう性感染症のはなし」多言語版（英語・中国語・ベトナム語）
（※当課ホームページに掲載）

*梅毒啓発動画（エイズ予防週間実行委員会での作製分）：英語・ベトナム語

*府保健所におけるHIV等検査の説明資料（多言語版）：ベトナム語追加

*府保健所におけるHIV等検査の問診：英語・中国語・ベトナム語（※各府保健所に送付予定）

正しい知識の普及・啓発

相談指導体制の充実

検査体制の充実

支援（医療・介護）体制の充実

HIV感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業

実施主体：公益財団法人エイズ予防財団（厚生労働省委託事業受託機関）

（1）支援チーム派遣事業（事業実施病院：1か所）

在宅でHIV陽性者に関わっている医療機関等からの要請に基づき、エイズ中核拠点病院より、支援チーム（医師・看護師・MSW等）を派遣し、HIV陽性者の医療・介護面等の支援を行う。

（2）実施研修事業（R6年度 事業実施病院：2か所 計8名参加）

訪問看護師や訪問介護職員等を対象に、エイズ治療中核拠点病院において、HIV/エイズに係る研修（講義・標準予防策等の実演・外来診療の見学・事例カンファレンス等）を実施する。



地域における高齢者等（HIV陽性者）支援推進のための取組 1)

(1) 高齢者支援に関わる介護サービス事業者等向け研修

主催：大阪府医療・感染症対策課

回数：年1回

方法：対面、オンライン（ライブ、オンデマンド）配信等

内容：HIV/エイズの基礎知識、HIV陽性者の実態、HIV陽性者が利用できる制度、高齢者施設や訪問看護ステーションの実践報告等

(2) 府保健所保健師向け研修会

主催：大阪府医療・感染症対策課

目的：

- ・ HIV陽性者に対する理解と相談支援の資質の向上
- ・ 各保健所での高齢者支援に係る関係機関への啓発活動等の推進

回数：年各1回

内容：カウンセリング研修の一環として、HIV陽性者事例を用いて事例支援・地域支援についてグループワークを実施

地域における高齢者等（HIV陽性者）支援推進のための取組 2）

（3） HIV陽性者地域支援者啓発事業（各府保健所での高齢者支援の推進）

①HIV陽性者個別支援（令和6年度：6件/3保健所）

②地域支援（関係機関への啓発活動）

- ⇒
- ・ 地域の入所施設向けHIV陽性者受入状況等の調査
 - ・ HIV/エイズ関連の動画配信による研修会の開催
 - ・ 他機関主催研修会や保健所主催の感染症をテーマとした研修会を活用しての啓発
 - ・ HIV/エイズに係る冊子の配付
 - ・ メールングリスト登録高齢者施設等への啓発資料の配信 など

（4） 大阪医療センター（近畿ブロックエイズ治療拠点病院）と自治体との連絡会議

主体：大阪医療センター、大阪府内政令市・中核市（9自治体）、大阪府（事務局）

目的：・ 病院・各自治体で実施できる高齢者支援について検討し、実践につなげる
・ 病院と自治体との連携を強化し、地域における高齢者支援を円滑に行う

回数：年1回

内容：病院及び地域における高齢者支援の現状の共有、高齢者支援における病院と自治体との連携のあり方の検討

地域における高齢者等（HIV陽性者）支援推進のための取組 3)

(5) 医療従事者向け研修会（大阪府医師会への委託事業）

主催：大阪府感染症対策課

実施：大阪府医師会

目的：身近な医療機関で一般診療や腎透析等を受けられる体制づくり

回数：年1回

内容：HIV/エイズの基礎知識・治療、標準予防策、血液暴露時の対応、国の動き等

R6年度参加者数：医師・看護師等60名（対面・オンデマンド配信の合計）

(6) エイズ治療拠点病院と大阪府医師会との連絡協議会（大阪府医師会への委託事業）

主催：大阪府感染症対策課

実施：大阪府医師会

目的：エイズ治療拠点病院と地域の診療所及び行政との連携体制の検討・改善

回数：年1回

内容：大阪府医師会実施のHIV/エイズ関連研修会や会員向けHIV陽性者の一般診療の受入状況等に関する調査結果の報告、針刺し事故時の受入やHIV陽性者への医療体制にかかる課題の検討等

R6年度出席者数：拠点病院9機関11名、大阪透析医会2名、医師会2名、当課2名

<会員向けアンケート結果：R6年度> 回答者数147件

①直近3年間のHIVの診療経験（あり：22%、なし：73%）

②HIV陽性者の一般診療可否（可能：28%、検討する：20%、不可39%、わからない13%）

⇒検討する・不可と回答した86名の回答（必要な情報があれば診療可能11%、検討する36%、不可44%、わからない9%）

地域における高齢者等（HIV陽性者）支援推進のための取組 4)

大阪府HIV感染者等歯科診療連携体制構築事業

(7) 歯科診療所従事者向け研修会（大阪府歯科医師会との連携事業）

主催：大阪府歯科医師会

協力：大阪府（講師交渉、当日の運営等）

目的：身近な歯科診療所で治療を受けられる体制づくり（協力歯科診療所の拡大）

回数：年1回

内容：HIV陽性者への歯科治療、HIV陽性者の口腔内の状態、HIV/エイズの基礎知識・治療、標準予防策、血液暴露時の対応等

R6年度参加者数：歯科医・歯科衛生士等120名（対面・オンデマンド配信の合計）

<HIV陽性者への歯科診療所紹介事業（全国的な取組）>

主体：大阪府歯科医師会

目的：身近な歯科診療所で治療を受けられる体制づくり

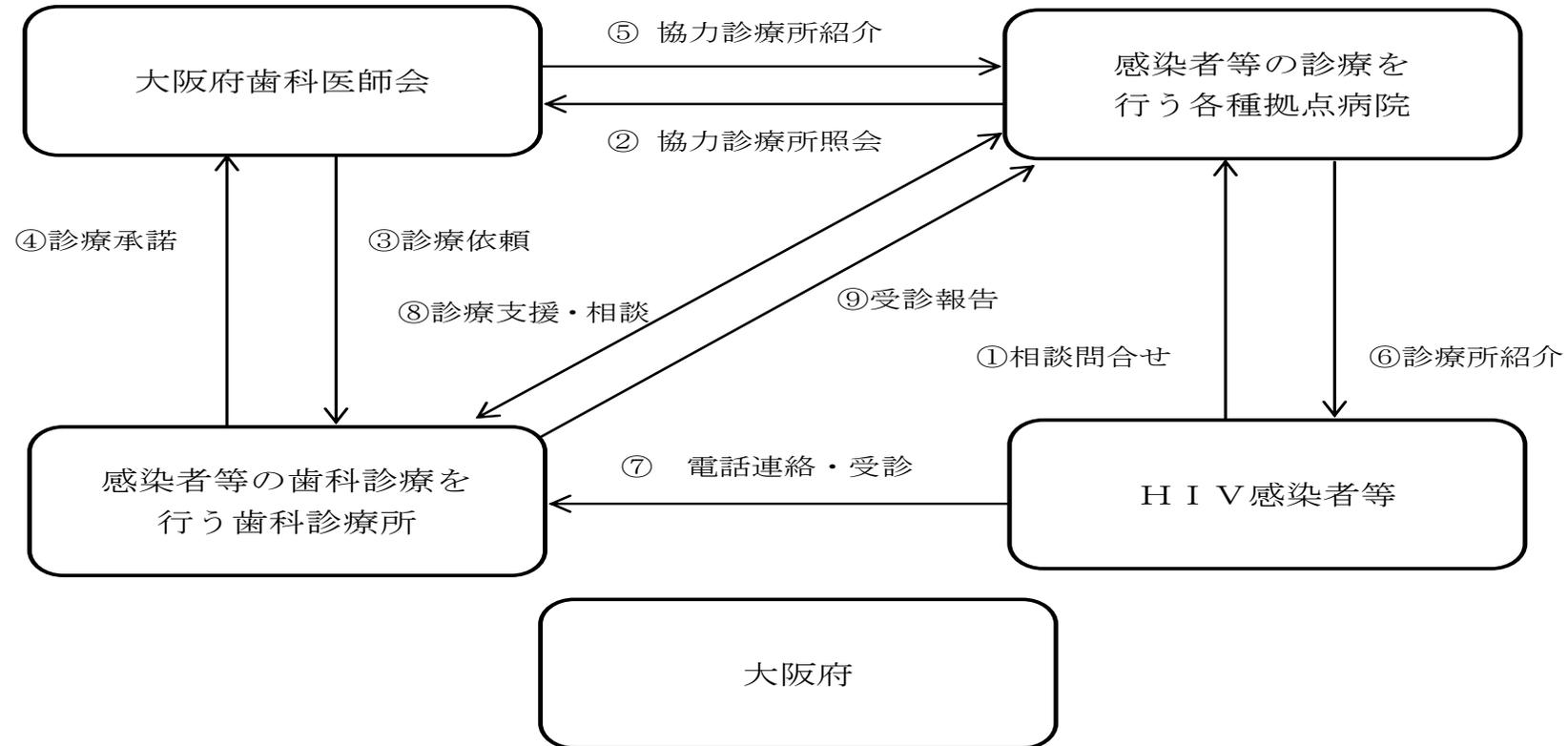
マッチング：R7年3月末現在 176件

その他：HIV陽性者の受入が決定した歯科診療所への抗HIV薬の提供（血液暴露時の対応）

(7) 大阪府HIV感染者等歯科診療連携体制構築事業について

歯科診療所紹介事業体系図

H I V感染者等歯科診療連携体制のイメージ図



- 本事業推進にあたっての連絡調整
- 患者及び関係機関等への周知（各HP及び各種啓発冊子等）
- 歯科診療連携体制に関する問合せ窓口
- 協力歯科診療所に対する研修の企画・開催

一般病院・診療所・施設等における針刺し事故対応

- 針刺し事故のあった医療機関等において、抗HIV薬の常備薬がない場合、**エイズ治療拠点病院（9か所）が緊急性のあるものとして対応する。**
- 薬の提供は、**針刺しの当事者が勤務する医療機関等の医師により予防内服が必要と判断した場合に限る。**
- 予防内服の判断「抗HIV治療ガイドライン（医療従事者におけるHIVの暴露対策）」
（2025年3月）

<https://hiv-guidelines.jp/index.htm>

※費用は労災保険の給付として認められている

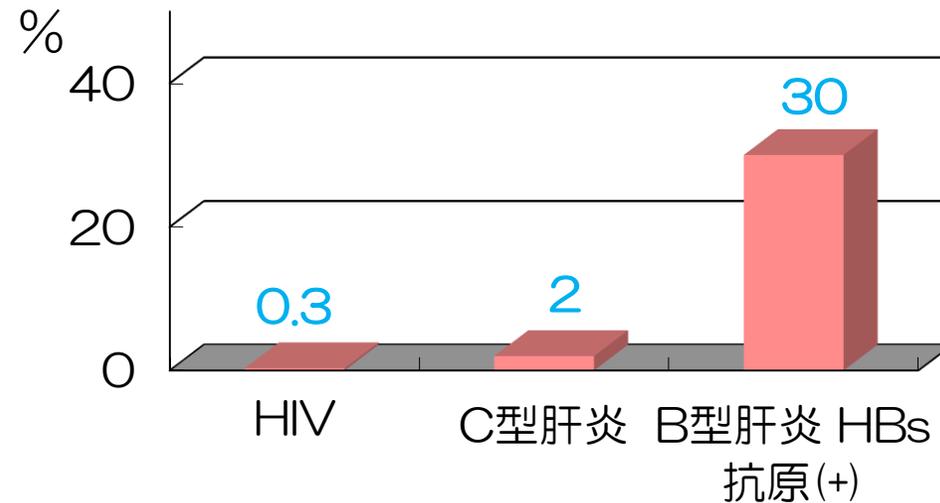
「労災保険におけるHIV感染症の取り扱いについて（通知）」

（健疾発第0909第1号）

府保健所における針刺し事故対応

- 「大阪府保健所のHIV検査における針刺し事故等
血液曝露事故対応マニュアル」整備
- 予防薬（ツルバタ・アイセントレス）の配備
【即日検査実施4保健所】

針刺し事故1回あたりの
感染リスク

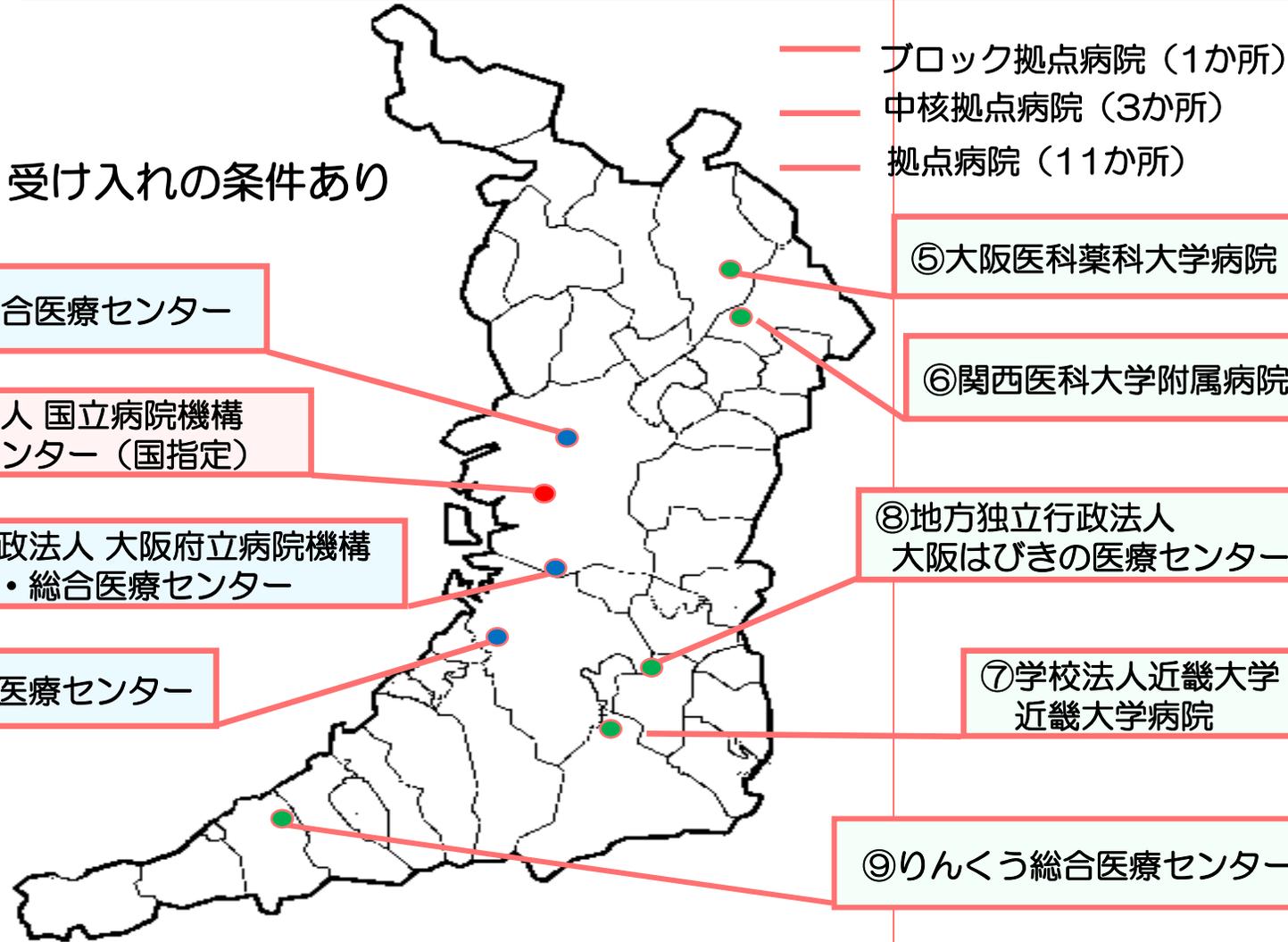


針刺し事故時に受入可能なエイズ治療拠点病院（9か所）

《エイズ治療拠点病院の機能》

エイズに関する総合的かつ高度な医療の提供及びエイズ診療に関する情報の収集、地域の医療機関への情報提供、地域の医療従事者に対する教育等

※各病院、受け入れの条件あり



《その他のエイズ治療拠点病院》

- ⑩ 独立行政法人国立病院機構 大阪刀根山医療センター（豊中市）
- ⑪ 大阪大学医学部附属病院（吹田市）
- ⑫ 独立行政法人地域医療機能推進機構星ヶ丘医療センター（枚方市）
- ⑬ 大阪公立大学医学部附属病院（大阪市）
- ⑭ 独立行政法人国立病院機構 近畿中央呼吸器センター（堺市）
- ⑮ 独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター（河内長野市）

<当課のサイト（針刺し等HIV曝露時感染予防）>

https://www.pref.osaka.lg.jp/o100030/kanse_nshokikaku/chikikansen-aids/harisasi.html

4 今後の課題

エイズ・梅毒予防対策の課題

エイズ予防対策について

- 地域におけるHIV陽性者の一般診療（合併症）受入体制の整備（エイズ治療拠点病院と地域の診療所との連携における窓口体制の整備の検討）
- 地域の高齢者支援に関わる事業者へのHIV陽性者理解の促進（府保健所や当課での他機関・他部署との連携による啓発の取組の推進）
- 外国人向け検査体制の充実
- 検査体制の見直し（本年度開始の郵送検査を含めて、府民、特に個別施策層の利便性を考慮した仕組を再検討）

梅毒予防対策について

- 10代へのアプローチ（教育庁との連携による、より低学年への対策の検討及び実施）
- 青少年への継続的な啓発（若年層との連携による啓発媒体・啓発方法の検討及び実施）
- MSM・SWの支援団体との連携による個別施策層へのアプローチの再検討（支援団体のPR及び連携による啓発の再検討及び実施）
- 産婦人科医や妊婦への啓発の継続（産婦人科医会との連携による取組の検討及び実施）
- 一般向けへのアプローチの拡充（検査の機会やさまざまな啓発媒体を活用しての取組）